
ごあいさつ

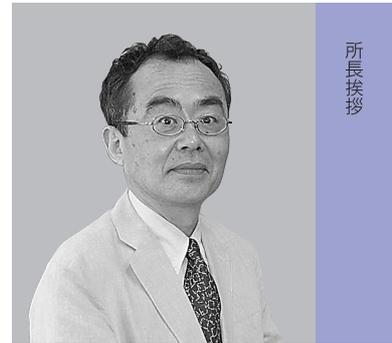
東洋文化研究所の使命は、人文社会科学のさまざまな専門分野を合わせてアジアを研究することにある。研究がカバーする地域は、東アジアから中東まで広がっている。中東というとエジプト、北アフリカも当然視野に入ってくる。行政とちがって研究には、地図上ではっきり定まった管轄範囲はない。アジアを中心に世界を研究しているのである。

アジアとは何かという疑問は、人々のあいだに絶えず浮かんでくるものである。中東はアジアの一部なのか、トルコはアジアなのかヨーロッパなのか、ロシア領シベリアはどうか、中央アジア諸国はどうか。どこに立ってアジアを語るか、何のために語るかによっていろいろな答えがあり得る。日本は地理教科書による世界の区分けでは当然アジアに入っている。だが明治以来今日まで、日本はアジアだという主張もあれば、日本は他のアジア諸国とは違うという主張もあった。国際政治の世界でアジア太平洋という言葉がしばしば使われるのも、アジアがあらかじめ定まった堅い実体ではないことを物語っている。地名、地域名は中立無私なものではなく、さまざまな主張を含んでいると考えたら良いだろう。もちろん政治的主張を掲げることはわが研究所の使命ではない。だが日本の学問教育の発展のためにはアジアを中心に据えた世界への視野が必要だという、研究上の使命感をもってこれからも進んでいきたい。

2007年4月

所長 関本 照夫

東京大学
東洋文化研究所



所長
挨拶

所長
関本
照夫

研究部門

本研究所は 1941 年 11 月 26 日、東洋文化の総合的研究を目的として、東京（帝国）大学に設置創設されました。哲学・文学・史学部門、法律・政治部門、経済・商業部門という部門体制で、附属図書館内に研究室、書庫、事務室を置いて発足しました。1949 年、新たに 3 部門が増設されたのを機会に研究組織を細分化し、哲学・宗教部門、文学・言語部門、歴史部門、美術史・考古学部門、法律・政治部門、経済・商業部門の 6 部門に再編成しました。同時に本拠を文京区大塚町の外務省所管の旧東方文化学院の一部に移し、これまでの附属図書館内研究室を分室として、研究の充実・発展をはかりました。

ついで 1951 年、人文地理学部門と文化人類学部門が加えられました。これを契機として、従来の諸科学の専門体系による部門構成を、汎アジア経済部門、汎アジア人文地理学部門、汎アジア文化人類学部門、東アジア政治・法律部門、東アジア歴史部門、東アジア美術史・考古学部門、東アジア哲学・宗教部門、東アジア文学部門という地域区分を加え 8 部門に再編成しました。地域部門の充実をはかる将来計画にもとづいて、1960 年には南アジア政治・経済部門、1964 年には東北アジア部門、1968 年には西アジア歴史・文化部門、1973 年には東南アジア経済・社会部門、1978 年には西アジア政治・経済部門が増設されて、13 部門を擁するにいたりました。

さらに、アジア地域全体が世界のなかでしめる重要性が大きくなったことを受けて、本研究所がわが国のアジア研究の中核的、指導的役割を果たすために、研究内容の充実、規模の拡大を含む組織上の再編成を行うことが必要となりました。そこで、1981 年に新しい構想にもとづく大部門制を採用し、これまでの 13 部門を、汎アジア部門、東アジア部門、南アジア部門、西アジア部門の 4 部門に統合して再出発し、今日にいたっています。

附属 東洋学研究 情報センター

1999 年度に、東洋学文献センターを廃止して、比較文献資料学と造形資料学という 2 つの分野からなる東洋学研究情報センターが新設されました。1966 年の設立以来東洋学文献センターが実施してきた文献資料に関するドキュメンテーション業務は、アジア全域の文献を対象とする比較文献資料学分野に引き継がれています。さらに、アジア文化研究にとって不可欠な絵画・考古資料等を対象とする造形資料学分野が新しく追加されました。これら両分野での研究成果は、アジア研究のための基礎的研究情報として世界に発信されています。

建物

創立以来 23 年にわたって、本研究所は附属図書館内研究室や外務省所管の建物に仮住いの状態のままでしたが、1967 年に、本郷構内に総合研究資料館（現総合研究博物館）との合同庁舎が完成し、5 階以上を本研究所が使用することになりました。

しかしその後、研究組織の拡充、研究活動の多様化、図書・資料の増加などにもとない、狭隘な施設の改善、とくに書庫の緊急な増設等の強い要望があり、1983 年にいって総合研究資料館（現総合研究博物館）との交換分合により、本研究所が合同庁舎を全館使用することになりました。これにもなって全面的に改修工事を行い、1984 年 3 月に工事が完成し、本研究所の建物総面積は 6,577 平方メートルで、地下 1 階より地上 8 階までとなりました。

2006 年 2 月に研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明し、同年 7 月以降、研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施、2007 年 8 月から耐震補強・改修工事を開始しました。2008 年 3 月までに工事完了の見込みです。

歴代受賞者

歴代所長

本研究所の教員の文化勲章・文化功労者・学士院賞の各受賞者は次の通りです。

文化勲章

江上 波夫 1991年
中根 千枝 2001年

文化功労者

辻 直四郎 1978年 (併)
江上 波夫 1983年
山本 達郎 1986年 (併)
川野 重任 1993年
中根 千枝 1993年
板垣 雄三 2003年
斯波 義信 2006年

学士院賞

仁井田 陞 1934年
宇野 圓空 1942年
山本 達郎 1952年 (併)
周藤 吉之 1956年
福島 正夫 1963年
鎌田 茂雄 1976年
荒 松雄 1978年
池田 温 1983年
鈴木 敬 1985年
田中 明彦 1993年

桑田 芳蔵 1941. 11. 26—43. 3. 31
宇野 圓空 1943. 4. 1—46. 10. 5
戸田 貞三 1946. 10. 6—47. 9. 30
辻 直四郎 1947. 10. 1—54. 3. 31
仁井田 陞 1954. 4. 1—58. 7. 10
飯塚 浩二 1958. 7. 11—60. 7. 9
結城 令聞 1960. 7. 10—62. 7. 9
江上 波夫 1962. 7. 10—64. 7. 9
飯塚 浩二 1964. 7. 10—65. 2. 28
小口 偉一 1965. 3. 1—66. 3. 31
川野 重任 1966. 4. 1—68. 3. 31
小口 偉一 1968. 4. 1—70. 3. 31
泉 靖一 1970. 4. 1—70. 11. 15
川野 重任 (事務取扱) 1970. 11. 16—70. 12. 17
鈴木 敬 1970. 12. 18—72. 3. 31
荒 松雄 1972. 4. 1—73. 3. 31
窪 徳忠 1973. 4. 1—74. 3. 31
佐伯 有一 1974. 4. 1—76. 3. 31
大野 盛雄 1976. 4. 1—78. 3. 31
深井 晋司 1978. 4. 1—80. 3. 31
中根 千枝 1980. 4. 1—82. 3. 31
大野 盛雄 1982. 4. 1—84. 3. 31
尾上 兼英 1984. 4. 1—86. 3. 31
山崎 利男 1986. 4. 1—88. 3. 31
斯波 義信 1988. 4. 1—90. 3. 31
池田 温 1990. 4. 1—92. 3. 31
松谷 敏雄 1992. 4. 1—94. 3. 31
後藤 明 1994. 4. 1—96. 3. 31
濱下 武志 1996. 4. 1—98. 3. 31
原 洋之介 1998. 4. 1—2002. 3. 31
田中 明彦 2002. 4. 1—2006. 3. 31
関本 照夫 2006. 4. 1—現在

研究活動一覽

東洋文化研究所では、各所員が独自の研究を進めるとともに、所内での共同研究や所外の研究者との研究協力を積極的に行い、次のようなさまざまな形態の研究活動を推進しています。

A 「21世紀アジアの研究」プログラム

これまでに培われてきた研究の成果を新たに組み替え、活性化すべく、所内研究者が既存の研究体制の枠を越えた4つのグループに分かれ、21世紀アジアについての研究プロジェクトを鋭意進めています。現行のプログラムは、2006年度に新しく発足したものです（右ページ参照）。

B 部門研究

所内の汎アジア、東アジア（第一）、東アジア（第二）、南アジア、西アジアの各研究部門と附属東洋学情報センターでは、それぞれの課題を掲げ、地域的・学際的な研究を共同して行っています。

C 個人研究

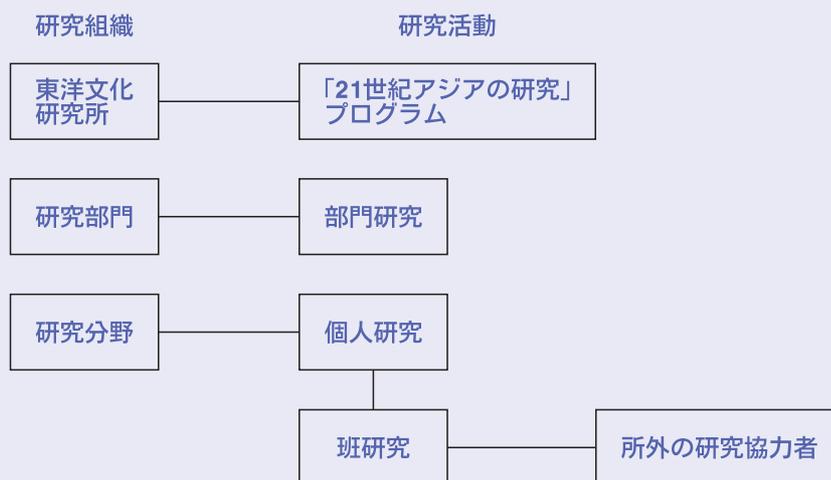
所員は個々の専門地域・分野において最先端の研究を行っており、その業績は国際的にも高く評価されています。

D 班研究

各専門分野の研究を推進し所外の研究者との交流を深めるため、所員を主任とする班研究会が特定のテーマごとに数多く設置されています。

E 外部資金による研究

所員は文部科学省科学研究費補助金やさまざまな外部の研究助成・奨学金に積極的に出願しており、多くが採択されて重要な成果を上げています。



先端地域研究 プログラム

「アジアの脱植民地化と伝統的産業の再編成」

かつて植民地支配下にあったアジアの多くの国々では、一次産品の生産と輸出に依存する経済と社会が形成されました。第二次大戦後の独立・脱植民地化とそれに続く工業化の波の中で、これら伝統的輸出産業がどう変容・再編成されてきたか、事例研究により検証します。

責任者 加納 啓良

メンバー 池本 幸生 高橋 昭雄 中里 成章 安富 歩 保城 広至

新分野開拓研 究プログラム

「アジアにおける幸福論・幸福観の総合的研究——過去と現在——」

幸福という問題は身近でありながら、学問の世界では敬遠されています。アジアのさまざまな地域で幸福がどんな風に論じられ感じられてきたのか、そして現在から未来に向けどんな風に語ることができるのか。このことをさまざまな専門分野の協力で研究します。

責任者 関本 照夫

メンバー 永ノ尾信悟 丘山 新 鎌田 繁 田中 明彦 名和 克郎
玄 大松 森本 一夫 馬場 紀寿 大川 謙作

超域連携研究 プログラム

「アジアの「美」の構築」

美術、文学、音楽に表象される「美」とは、社会的、政治的、経済的に、いかようにも構築されるものです。本プログラムでは、「美」の具体的な構築の道筋、技法、仕掛け、思惑というものを、アジア諸国を例に比較検討することを目標としています。

責任者 板倉 聖哲 菅 豊 榎屋 友子

メンバー 小川 裕充 高見澤 磨 松井 健 山内 文登

資料情報研究 プログラム

「アジア書籍の電子図書館化とその多角的活用法の研究」

当研究所は、豊富なアジア学の図書・文書・画像資料を保有しています。保存に留意しつつ効果的に閲覧サービスを提供するという責務を果たすために、現在精力的に電子化の作業を進めていますが、それを電子図書館として提供し、多角的に活用するための方法を探求します。

責任者 平勢 隆郎 尾崎 文昭

メンバー 大木 康 鈴木 董 小寺 敦

汎アジア部門

「アジア諸地域における社会・文化の変容過程」

汎アジア部門は、アジアという対象を、経済学・政治学・人文地理学・文化人類学・比較思想という社会科学・人文科学の広い範囲にわたり、個別専門分野ならびに学際的な領域の理論と方法に深く関わりながら研究を深化させています。同時にこの部門ではアジアのアジア研究者とのネットワークにも力を注ぎ、アジア研究の地域的ハブとしての機能を担おうとしています。日本も重要な研究対象としています。

経済・統計研究分野 教授 池本 幸生

国際政治研究分野 教授 田中 明彦

人文地理学分野 教授 松井 健 准教授 菅 豊

文化人類学分野 教授 関本 照夫 准教授 名和 克郎 助教 大川 謙作

東アジア部門
(第一)

「東アジアにおける国家権力と社会経済構造」

東アジア第一部門は、中国、朝鮮、日本、ときにはベトナムを含む東アジア世界を総体として取り上げ、社会科学、歴史科学的方法によって過去から現在に至る動態を把握することを目指します。この研究では、とくに東アジア第二部門と協力して、学際的な地域研究による生きた全体像を目指すことは言うまでもありません。

経済・社会・政治過程研究分野 教授 高見澤 磨 准教授 安富 歩
07年4月から

歴史研究分野 教授 黒田 明伸 准教授 真鍋 祐子

考古研究分野 教授 平勢 隆郎 准教授 小寺 敦

東アジア部門
(第二)

「東アジアにおける庶民文化の形成と展開」

東アジア第二部門は、中国を中心とする東アジア地域の思想、宗教、文学、美術を研究対象とする部門です。「庶民文化の形成と展開」を課題とした部門研究において、各研究分野で独自の検討をするとともに、共同してその解明を目指しています。

宗教、思想研究分野 教授 丘山 新 准教授 橋本 秀美

文学研究分野 教授 尾崎 文昭 教授 大木 康 助教 山内 文登
07年4月から

美術研究分野 准教授 板倉 聖哲

南アジア部門

「環ベンガル湾地域における文化・文明の交錯」

南アジア部門は、インド亜大陸を中心とする狭義の南アジア地域とともに東南アジア地域をも研究の対象にしています。この地域は多様な言語と文化をもつ人びとが複雑な社会を形成しているうえ、大部分の国々が欧米の植民地支配を経験し第二次大戦後に独立を勝ち取ったという歴史的経験をもっており、こうした事情の理解なしには現状の把握も不可能です。このため、本部門は政治・経済・社会・文化などの広範な分野にわたってこの地域の過去と現在を探求することを共通の課題としています。

経済・社会、政治過程研究分野 教授 加納 啓良 教授 高橋 昭雄

歴史・考古研究分野 教授 中里 成章

宗教・文化研究分野 教授 永ノ尾信悟 助教 馬場 紀寿

西アジア部門

「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」

西アジア部門は、アフガニスタンからトルコ・エジプトまでの地域、いわゆる中東を研究対象とし、あわせて内陸アジアをも対象のなかに包含します。この広大な地域の政治、経済、文化、社会を、学際的研究によって総合的に理解し、その特質を解明することが本部門の目的です。そのために各自が独自の立場から個人研究を行うとともに、「西アジア文化の歴史的形成と現代的課題」を共通の研究題目とする共同研究が実施されています。

経済・社会、政治過程研究分野 教授 鈴木 董 教授 長澤 榮治

歴史・考古研究分野 教授 羽田 正 教授 柁屋 友子

宗教・文化研究分野 教授 鎌田 繁 准教授 森本 一夫

東洋学研究情報センター

「アジア資料学の構築」

(東洋学研究情報センターの項、18ページをご参照ください。)

C 所員の研究テーマ (2007年度)

汎アジア部門

いけちと ゆきお
池本 幸生

アジアにおける貧困と不平等

すが ゆたか
菅 豊

東アジアの自然と文化

たなか あきひこ
田中 明彦

東アジアをめぐる主要国間の国際政治

まつい たけし
松井 健

文化としての自然

おおかわ けんさく
大川 謙作

現代チベットの親族と政治

せきもと てるお
関本 照夫

現代アジアにおける伝統技能と社会

なわ かつお
名和 克郎

ネパールおよび南アジアの集団間関係

東アジア部門 (第一)

こてら あつし
小寺 敦

中国古代家族史

たかみざわ おさむ
高見澤 磨

現代中国の法と社会

まなべ ゆうこ
真鍋 祐子

朝鮮民族社会の伝統文化とナショナリズム

くろだ あきのぶ
黒田 明伸

東アジア経済史

ひらせ たかお
平勢 隆郎

中国古代領域国家の形成

やすとみ あゆむ
安富 歩

魂の脱植民地化

東アジア部門 (第二)

いたくら まさあき
板倉 聖哲

宋元文人の絵画表象

おかやま はじめ
丘山 新

中国における仏教經典の受容

はしもと ひでみ
橋本 秀美

中国経学史

おおき やすし
大木 康

中国明清時代の文学

おさき ふみあき
尾崎 文昭

中国二十世紀文学史論

やまうち ふみたか
山内 文登

帝国日本のレコード産業と植民地朝鮮

南アジア部門

えいの お しんご
永ノ尾 信悟

古代インド社会と祭式

たかはし あきお
高橋 昭雄

東南アジアの農村社会

ば ば のりひさ
馬場 紀寿

初期仏教・部派仏教の聖典形成史

かのう ひろよし
加納 啓良

東南アジアの現代経済史

なかざと なりあき
中里 成章

南アジア近現代史

西アジア部門

かまだ しげる
鎌田 繁

イスラーム宗教思想の構造と展開

ながさわ えいじ
長澤 榮治

近代アラブ社会経済史

ますや ともこ
榎屋 友子

イスラーム地域における美術と社会

おかやま はじめ
丘山 新 (兼任)

東アジア文献資料の研究

ヒョン テソン
玄 大松

アジア資料の調査研究

ますや ともこ
榎屋 友子 (兼任)

西アジア造形資料の研究

せきもり
関守 ゲイノー

日本宗教史, 特に修験道の政治・経済史

すずき ただし
鈴木 董

オスマン帝国の政治社会史的研究

はねだ まさし
羽田 正

世界史の再構築

もりもと かずお
森本 一夫

イスラーム期イランの社会史

あがわ ひろみつ
小川 裕充

東アジア造形資料の研究

ほしろ ひろゆき
保城 広至

東南アジア文献資料の研究

東洋学研究情報センター

国際学術交流室

アジア・アフリカの貧困と開発の再検討

主任：池本幸生

※松井範博 ※後藤玲子 ※野上裕生 ○佐藤仁 ※山森亮
※國分圭介 ※片岡洋子 ※田口さつき ※佐藤宏
※坪井ひろみ ※吉野馨子 ※峯陽一

アジアの食文化と開発と地域

主任：池本幸生

玄大松 菅豊 ○渡辺知保 松井健 名和克郎 ○梅崎昌裕
羽田正

東アジアにおける「民俗学」の方法的課題

主任：菅豊

※中村淳 ※南根祐 ※中野泰 ○岩本通弥 ※周星
※田村和彦 ※門田岳久 ※陳志勤

アジア染織業に見る地域アイデンティティと国際ネットワーク

主任：関本照夫

※伊藤ふさ美 ※中谷文美 ○山下晋司 ※塩田光喜
※小笠原小枝 池本幸生 ※林行夫 ※上田曜子 ※田口理恵
高橋昭雄 ※杉本星子 名和克郎 松井健 ※陳競

東アジア・東南アジアをめぐる主要国間の国際政治

主任：田中明彦

○山影進 ※浅野亮 ○古田元夫 ※伊豆見元 ※瀬島誠
○谷垣真理子 ※今村弘子 ○原田至郎 保城広至 玄大松
※梁基雄 ※山本和也

南アジア北部における人類学的研究の再検討

主任：名和克郎

※上杉妙子 ※小牧幸代 ※佐藤齊華 ※田辺明生
※外川昌彦 ※藤倉達郎 ※マハラジャン, ケシャブ・ラル
※三尾稔 ※南真木人 ※森本泉 ※安野早己

サブシステム研究の可能性

主任：松井健

永ノ尾信悟 菅豊 ※飯田卓 ※太田至 ※大村敬一
※大山修一 ※落合雪野 ※河合香史 ※栗田博之
※栗本英世 ※窪田幸子 ※小長谷有紀 ※末原達郎
※杉島敬志 ※杉藤重信 ※須藤健一 ※曾我亨 ※高倉浩樹
※野林厚志 ※松田素二 ※家中茂

中国法研究における固有法史研究、近代法史研究及び現代法研究の総合の試み

主任：高見澤磨

※ポール・チェン ○松原健太郎 ※陶安あんど ※中村正人
※川村康 ※西英昭 ※加藤雄三 ※鈴木秀光 ※高遠拓児
※赤城美恵子 ※鹿嶋瑛

中国出土文字史料とその歴史的背景

主任：平勢隆郎

※竹内康浩 ※呂静 ※原宗子 ※影山輝国 ※鶴間和幸
※工藤元男 ※谷豊信 ※飯尾秀幸 ※吉開将人 ※熊谷滋三
※近藤浩之 ※甘懐真 ※池田知正

仏教美術に関する資料収集と比較研究

主任：板倉聖哲

※内藤榮 ※伊東哲夫 ※稲本泰生 ※榎本涉 ※高橋範子
※高橋照彦 丘山新 ※井手誠之輔 ※安田治樹

中国禅宗語録の研究

主任：丘山新

橋本秀美 ※神塚淑子 ※小川隆 ※衣川賢次 ※土屋昌明
※石井修道 ○末木文美士 ※前川亨 ※喬志航 ※梅田雅子

漢籍 版本と分類の研究

主任：丘山新

高見澤磨 黒田明信 平勢隆郎 橋本秀美 尾崎文昭
小川裕充 板倉聖哲 大木康 ○川原秀城 ○小島毅
○大西克也 ○村田雄二郎 ○黒住真 ※陳捷 ※梶浦晋
※黃仕忠

世紀交替期中国における文化転形

主任：尾崎文昭

大木康 丘山新 高見澤磨 ○大西克也 ※坂元ひろ子
※白水紀子 ※砂山幸雄 ○戸倉英美 ○村田雄二郎
※茂木敏夫 ○吉澤誠一郎

中国一九三〇年代の文学

主任：尾崎文昭

山内文登 ○伊藤徳也 ○刈間文俊 ※近藤龍哉 ※佐治俊彦
○代田智明 ○藤井省三 ※松岡俊裕

南アジア諸宗教の形成と展開

主任：永ノ尾信悟

鎌田繁 羽田正 ※片岡啓 ○斎藤明 ※高島淳 ※引田弘道
※島岩 ※森雅秀 ※田中公明 ※榊和良 ※種村隆元
※杉木恒彦 ※青木健 ※八尾史 ※堀内俊郎 ※鈴木隆泰
※鈴木健太 ※横地優子 ※佐藤直実 ※西沢史仁 ※相場徹
※松本峰哲

東南アジア近現代史像の再検討

主任：加納啓良

※浅見靖仁 ※小泉順子 ※桜井由躬雄 ※白石昌也
○末廣昭 高橋昭雄 ※土佐弘之 ○中西徹 ○藤原帰一
○古田元夫 ※高地薫 ※伊藤正子 ※岩月純一 ※宮脇聡史
※水野明日香 ※藪下ネーナパー

特産品とその消費の変容から見た現代アジア経済史

主任：加納啓良

池本幸生 高橋昭雄 ※久米高史 ※水野明日香 ※山本博史
※宮田敏之 ※三本木一夫 ※小座野八光

ミャンマー近現代史における「国」と「民」

主任：高橋昭雄

※根本敬 ※工藤年博 ※谷祐可子

南アジアの歴史グラフィ

主任：中里成章

※栗屋利江 ※大石高志 ※押川文子 ※神田さやこ
※木村真希子 ○志賀美和子 ※竹中千春 ※野村親義
※古井龍介 ○水島司 ※柳澤悠 ※脇村孝平

イスラーム思想の文献学的研究

主任：鎌田繁

※小林春夫 ○杉田英明 ○竹下政孝 ※東長靖 ※中田考
※野元晋 ※藤井守男 ※菊地達也 ※吉田京子 ○高橋英海
※仁子寿晴

アジア都市比較の課題と方法

主任：鈴木董

※陣内秀信 松井健 ※妹尾達彦 大木康 ※清水展 羽田正
※坂本勉 ※林佳世子 ○大田省一 ※黒木英充 ○本村凌二
※小泉龍人

比較イスラーム制度史の研究

主任：鈴木董

※三浦徹 ※私市正年 ※林佳世子 羽田正

イスラーム史料の総合的研究

主任：鈴木董

※坂本勉 ※八尾師誠 羽田正 ※林佳世子 ※黒木英充
※堀井優 ※加藤博 ※私市正年 ※三沢伸生 ※秋葉淳

西アジア文献資料学の課題と方法

主任：鈴木董

長澤榮治 羽田正 鎌田繁 永ノ尾信悟

中東の社会変容と思想運動

主任：長澤榮治

※池田美佐子 ※鈴木恵美 ※臼杵陽 ※岡野内正 ※加藤博
※栗田禎子 ※福田安志 ※松本弘

都市社会と宗教施設

主任：羽田正

○藤井恵介 ※私市正年 ○小松久男 ※M・サドリアー
※林佳世子 ※三浦徹 ※深見奈緒子 ※山中由里子
森本一夫 榎屋友子 ○大田省一

欧文ペルシャ旅行記の研究

主任：羽田正

※近藤信彰 ※山岸智子 ※山中由里子 ※山口昭彦
榎屋友子 ※Mansur Sefatgol

イスラーム美術の諸相

主任：榎屋友子

※深見奈緒子 ※真道洋子 ※小林一枝 ※阿部克彦
※山下王世

ペルシア語文化圏に関する文献学的研究

主任：森本一夫

※近藤信彰 ※菅原睦 ※真下裕之 ※前田弘毅

現存する中国絵画の包括的再検討

主任：小川裕充

板倉聖哲 ※嶋田英誠 ※湊信幸 ※宮崎法子 ※藤田伸也
※救仁郷秀明 ※井手誠之輔 ※西上実 ※伊藤大輔
※増記隆介 ※竹浪遠

アジア美術とアイデンティティ

主任：小川裕充

板倉聖哲 ※西上実 ※井手誠之輔 ※朴亨國 ※後小路雅弘
※浅井和春 ○大田省一 ※秋山光文 羽田正 榎屋友子
※田中秀隆

E 外部資金による研究 (2005, 2006 年度)

文部科学省・日本学術振興会科学研究費による 研究調査

松井 健

「自然資源の認知と加工」
特定領域研究 2005 2006

黒田明伸

「中近世東アジア貨幣史の特殊性・共時性とその貨幣論的含意」
特定領域研究 2005 2006

羽田 正

「海域比較研究——インド洋海域世界と地中海海域世界における地域間交流の諸相——」
特定領域研究 2005 2006

中里成章

「アジア諸社会におけるエリートのネットワークと文化表象——比較研究の試み——」
基盤研究(A) 2005

加納啓良

「砂糖・コーヒー・米に見る 20 世紀の大衆消費展開とアジア輸出経済の変容」
基盤研究(A) 2005 2006

大木 康

「アジア古籍電子図書館の構築の研究」
基盤研究(A) 2005 2006

小川裕充

「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究——東南アジアから全アジアへ——」
基盤研究(A) 2005 2006

羽田 正

「17～18 世紀アジア諸地域の港町における異文化交流の諸相の比較研究」
基盤研究(A) 2005 2006

池本幸生

「貧困問題への潜在能力アプローチの応用に関するアジアとアフリカの比較研究」
基盤研究(B) 2005

永ノ尾信悟

「イスラーム教と接触以後の南アジア諸宗教の相互関係に関する研究」
基盤研究(B) 2005

鈴木 董

「中東コア地域の政治社会に関する基本資料データベース構築に向けての基礎研究」
基盤研究(B) 2005 2006

長澤榮治

「アラブ世界の活字文化とメディア革命」
基盤研究(B) 2006

菅 豊

「日本・中国の伝統地域社会における社会関係資本の比較研究」
基盤研究(C) 2005 2006

平勢隆郎

「戦前の学際的アジア研究調査により記録された画像資料に関する系統的研究」
基盤研究(C) 2005 2006

中里成章

「独立期以降におけるインド農業発展の制度的要因——西ベンガル州の事例——」
基盤研究(C) 2006

高橋昭雄

「英領植民地下のビルマ（ミャンマー）における土地・借金文書の研究」
萌芽研究 2005 2006

藪下ネーナパー

「タイにおける科学技術開発——日本からの技術移転——」
若手研究(B) 2005

ティムール・ダダバエフ

「中央アジアにおける民族間対話の仕組みと役割——マハッラ地域社会を事例として——」
若手研究(B) 2005

大川謙作

「チベット村落社会における親族・民族・個人関係の人類学的研究」
若手研究（スタートアップ） 2006

保城広至

「戦後日本のアジア地域主義外交 1952～1966」
若手研究（スタートアップ） 2006

玄 大松

「戦後日韓における「独島・竹島問題」報道の比較研究」
若手研究（スタートアップ） 2006

田中明彦

「データベース 20 世紀・21 世紀年表」
研究成果公開促進費 2005 2006

大木 康

「東洋文化研究所蔵漢籍目録データベース」
研究成果公開促進費 2005 2006

その他の研究助成・奨学金**深見奈緒子**

トヨタ財団助成金 2005

平勢隆郎

三菱財団人文科学研究助成金 2005

保城広至

第十九回環太平洋学術研究助成費（財団法人大平正芳
記念財団） 2005

黒田明伸

トヨタ財団 2005 年度研究助成金 2005 2006

平勢隆郎

「東文研蔵アジア写真資料集成データベース」
研究成果公開促進費 2005 2006

加納啓良

「Indonesian Exports, Peasant Agriculture and the
World Economy, 1850–2000 : Economic Structures in
a Southeast Asian State」
研究成果公開促進費 2006

板倉聖哲

鹿島美術財団研究助成金 2005

森本一夫

平成 18 年度稻盛財団研究助成金 2006

馬場紀寿

第 44 回（平成 18 年度）三島海雲記念財団学術奨励金
2006

玄 大松

韓国海洋水産開発院助成金 2006

- 松本忠雄氏旧蔵書：日中関係など 3,000 冊
 雙紅堂文庫：長澤規矩也氏旧蔵書 明清戯曲小説類漢籍 3,150 冊
 清野文庫：清野謙次氏旧蔵書 人類学・考古学関係洋書 750 冊
 矢吹慶輝氏旧蔵書：マニ教文献，仏教遺跡など洋書 305 点
 下中文庫：下中弥三郎氏寄贈 第二次大戦後出版された中国書 4,500 冊，洋書 130 冊，中国雑誌 10 冊
 東京銀行調査部旧蔵資料：和漢書・資料類 18,000 点
 仁井田文庫：仁井田陞氏旧蔵書 漢籍・中国書 5,000 冊，和書 2,200 冊，洋書 120 冊，清代公・私文書類 900 余点，碑文拓本 50 基
 我妻文庫：我妻栄氏旧蔵書 アジア法制関係文献資料 647 部 932 冊
 倉石文庫：倉石武四郎氏旧蔵書 漢籍 4,433 点，中国書 2,300 点，和書 3,300 点，その他 676 点
 江上文庫：江上波夫氏旧蔵書 歴史学・民族学・考古学関係 洋書 2,550 点
 Daiber Collection I, II：Hans Daiber 氏収集 12～20 世紀初頭にいたるイスラーム宗教・思想・歴史関係 アラビア語写本 490 点
 文淵閣四庫全書影印本：1,501 冊
 オランダ植民地省公文書（1850～1921）索引およびジャワ官報（1928～1939）：（マイクロフィッシュ）
 乾隆版大蔵経：清代に刊行された木版大蔵経：1,657 部
 Ouseley Collection：Gore Ouseley 卿旧蔵書 17～19 世紀西欧人のインド・中近東旅行記 ペルシア文学 60 点 106 冊
 Mütferrika Collection：オスマン朝時代の初期刊本 17 点
 南アジア伝道教団資料集成：18～20 世紀の教団の年報，議事録，報告書など（マイクロフィッシュ）
 Indonesian Monographs 1945～1973：独立後インドネシア社会科学関係（マイクロフィッシュ）
 今堀文庫：今堀誠二氏旧蔵書 近現代中国社会史・華僑関係資料漢籍 300 点，中国書 2,000 点，和洋書 260 点，文書 500 点
 東アジア宗族社会史関係資料 朝鮮族譜集成 494 点 中国華南宗族社会史資料，南洋華僑・華人関係資料 2,263 点
 中国西北文献叢書：中国西北地方の歴史・文学等基本文献
 オスマン語・トルコ語年鑑・定期刊行物コレクション
 西アジア関連写本集成：ミンガナコレクション，ロンドン大学東洋アフリカ研究所など所蔵のアラビア語写本（マイクロフィッシュ）
 中国第一歴史档案馆清代档案資料：清朝公文書（マイクロフィルム）
 夕嵐草堂文庫：前野直彬氏旧蔵書 明清小説類 漢籍 500 点 4,400 冊
 伊藤文庫：伊藤義教氏旧蔵書 古代・中世イラン学関係 和・洋書 849 冊
 安田文庫旧蔵『論語』コレクション：安田弘氏寄贈 正平版を含む論語 9 点を柱とする漢籍 11 点
 上村文庫：上村勝彦氏旧蔵書 サンスクリット詩学・宗教・哲学 サンスクリット語 658 点
 タイ語文献コレクション：文献 2,185 点と図書 7 点をあわせた 2,192 点のタイ語文献
 荒木文庫：荒木茂氏収集波斯関係洋書 938 点 1,112 冊

4 図書の利用と保存

(1) 図書の利用状況

開架スペースには研究所刊行物、所員の著作、参考書、新聞を配架し、他の蔵書はすべて書庫に配架しています。閲覧希望の図書資料はカウンターで出納します。蔵書は原則として貸出していません。

2005・2006年度開室日数・閲覧者数は次の通りです。

	2005年度	2006年度*
開室日(日)	220	116
学内閲覧者(人)	3,134	183
学外閲覧者(人)	2,294	210

*建物耐震補強工事のため閲覧業務の制限・中止を余儀なくされました。

(2) 貴重図書の保存・複製・閲覧

本研究所の所蔵資料には貴重なものが多く、かつ、それらはアジア研究において不可欠なものです。一方ではこれら図書資料を保存しなければならず、他方では閲覧に供してアジア研究を支えていく責任があります。保存に特に注意を払っている特別貴重書は1,300余点所蔵しています(2005年10月現在)。古い書籍には既に破損していたり、劣化が進んでいるものもあります。

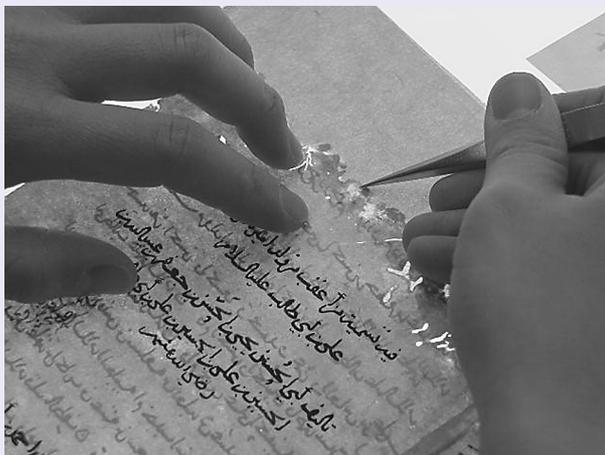
現在、貴重書の保存と利用を両立させるために、マイクロフィルム等光学的複製化、複製本作成、デジタル化など貴重書の複製化を進めています。ただし、この作業には多大の時間と費用とを要します。利用者の広い支援と協力をお願いします。

こうした作業のひとつの成果として2006年度に「アジア古籍電子図書館」をインターネット上に公開し、「漢籍善本全文影像資料庫」、「アラビア語写本ダイバーコレクションデータベース」をはじめ貴重書全文を遠隔地からも利用していただけるようになりました(20ページ参照)。

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/%7Eimglib/>

来所された閲覧者には複製本を閲覧していただきますが、特に必要のある専門家には所定の手続きを経て原本を閲覧していただくことができます。

なお本研究所蔵書の目録や影印本の出版は、本研究所事業のほか、内外の研究機関・出版社においても進められています。



専門家によるアラビア語写本(ダイバーコレクション)の補修作業

図書の利用について (2007年度は建物耐震補強工事のため利用できません。再開時期については、当研究所図書室ホームページ <http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~library/> をご覧ください)

閲覧 一般図書・貴重書

どなたでもご利用いただけますが、大学等研究機関に所属されていない方は事前に所蔵図書資料閲覧申請を出していただきます。

特別貴重書

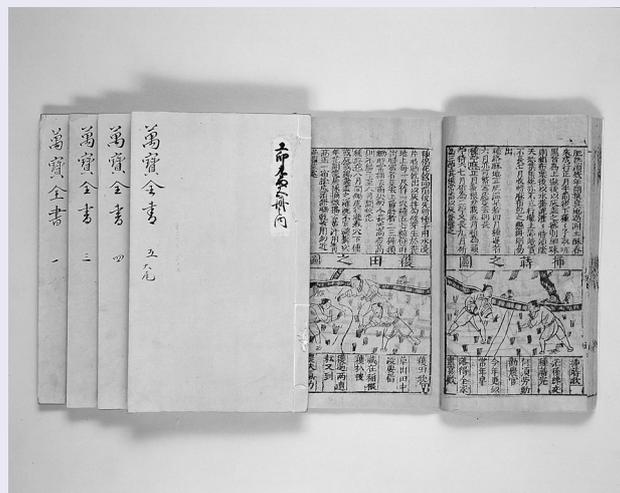
複製がある場合には、複製については一般図書として閲覧できます。
研究・教育上原本の閲覧が特に必要な場合には、特別貴重書閲覧申請をお出しください。審査のうえ、ご利用いただけます。
保存状態などにより原本の閲覧ができない場合があります。

複写・掲載 複写申請

複写申請のうえ複写することができます。
線装本貴重書・特別貴重書等は写真撮影により複製することができます。ネガフィルムは本研究所で保存します。
なお著作物の二分の一以上の複写は全頁複写となり、個人には認められません。

出版掲載許可申請・放映許可申請

複写した画像を出版物に掲載したり、ウェブサイト上で公開したりする場合には、予め出版掲載許可申請をお願いします。テレビ等で放映する場合も同様です。出版物の場合には1部、テレビ番組等の場合には録画記録媒体1部のご寄贈をお願いします。なお、ウェブサイト上での公開の場合には、URLおよび公開した部分の画像をプリントアウトしたもの1部のご提供をお願いします。



万寶全書
(明艾南英撰、崇禎元〈1628〉年、存仁堂)

東洋学研究情報センター

センターの目的・沿革

東洋学研究情報センターは、旧東洋学文献センター（1966年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、1999年4月1日に新設されました。現在のセンターは、旧センターの東アジアを中心とする豊かな活動実績を継承しつつ、対象地域をアジア全域に拡大し、造形資料と文献資料の両分野にわたる「アジア資料学」の確立を目指しています。

研究活動

アジア研究の造形・文献両分野の資料のデータベースの構築と資料学的研究を実施しています。以上に加えて、アジア研究に関する情報を収集・整理・蓄積・公開することを旨とする研究情報プロジェクトを2003年度から開始しました。

センター長 **小川 裕充**

造形資料学分野

美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を研究対象としています。

教授 **小川 裕充**

教授 **榎屋 友子** (兼任)

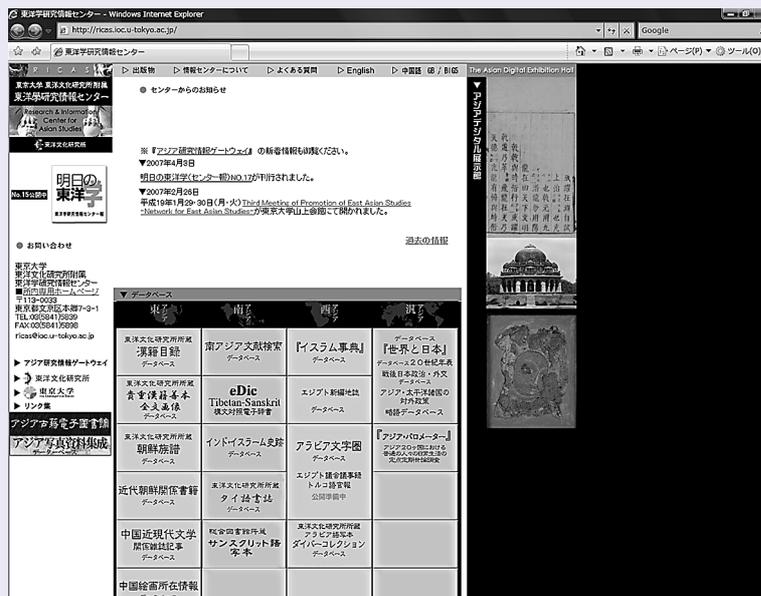
助教 **保城 広至**

比較文献資料学分野

アジア諸言語で書かれた書籍・新聞雑誌・文書・碑文等の文字資料を研究対象としています。

教授 **丘山 新** (兼任)

准教授 **玄 大松**



東洋学研究情報センター ホームページ (http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/)

センターの主要な活動

センターは、アジア学関連資料を収集・整理するデータベースプロジェクトに加えて、アジア研究に関する情報を組織化し発信するプロジェクトを進めています。

アジア研究 情報 Gateway

<http://asj.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

日本におけるアジア学の研究情報を総合的に組織化し、発信することを目的としたホームページです。アジア各国の書店・図書館情報・留学情報・研究会開催情報のほか、「Asian Studies Watching」のコーナーには各種の研究エッセイを掲載し、若手アジア研究者の研究情報や意見の交換の場を目指しています。



アジア研究情報ゲートウェイホームページ（英文版）

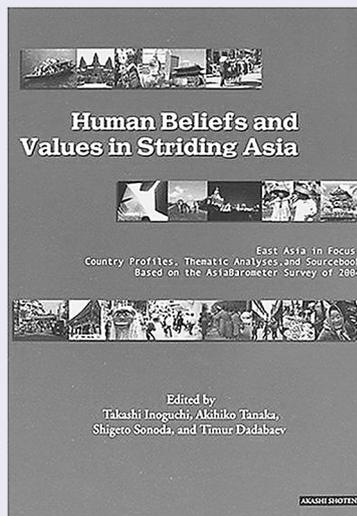


エジプト カイロの書店情報

アジア・ バロメーター

<http://www.asiabarometer.org/en/index/>

アジアの「普通の人々の日常生活」を定点観測するプロジェクトです。アジア全域で、毎年世論調査を実施し、実証的なデータを累積するとともに、国内外の研究者と共同で分析・討論を行います。結果はウェブサイト随時公開されます。



アジア・バロメーターの成果の英文報告書
(2004年調査)

漢籍整理長期 研修

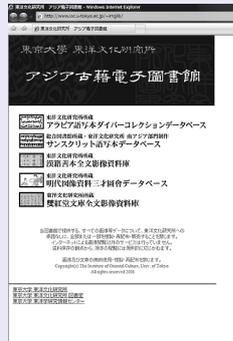
全国の大学図書館等職員に、漢籍の整理技術を普及する目的で実施しています。10日間にわたる講義と実習は、四部分類・目錄法概説から、朝鮮本・和刻本の知識、中国書史、漢籍補修法に至るまで、幅広い関連知識を習得できるように計画されています。1980年の開始以来、約75機関、190名以上が受講しました。

データベースプロジェクト

アジア古籍電子図書館

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/%7Eimglib/>

本研究は、文化財としての漢籍善本の保存とともに、多くの研究者の研究に資するため、世界に先駆けて資料をネットワーク上で試験的に公開することを決断しました。国内外の諸研究機関・図書館が、同様の試みを積極的にすすめ、将来的には、仮想空間上に国際的に連携した善本漢籍影像資料庫が構築されることを願っています（16ページ参照）。



アジア古籍電子図書館データベース



目録のページ

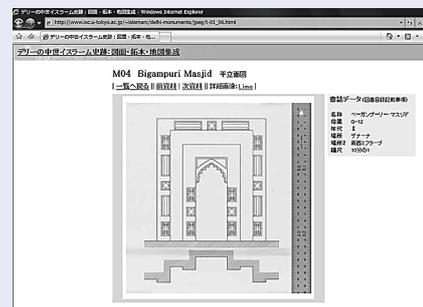
インド・イスラーム史跡データベース

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~islamarc/WebPage1/hfm/index.shtml/>

センターは、1960年代初頭に東京大学インド史跡調査団が撮影したイスラーム建築遺構の写真約2万枚を保管しています。このうち14,000枚あまりをデジタル化し、建物紹介とともに順次公開しています。



インド・イスラーム史跡



デリーの中世イスラーム史跡：図面・拓本・地図集成

データベース『世界と日本』

<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~worldpn/>

戦後日本の政治や国際関係についてのデータベースです。重要文献、演説、出来事、略語などを調べることができます。



データベース「世界と日本」



20世紀・21世紀年表検索ページ

ダイバーコレクションデータベース

http://ricasdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/daiber/db_index.html

イスラーム史料写本の画像電子化した全内容をオリジナルカタログと併せて利用できます。

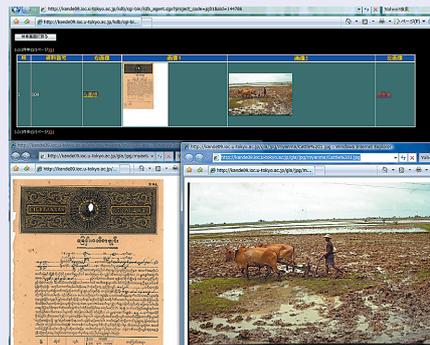


ダイバーコレクションデータベース

植民地期ビルマの土地関係資料データベース

<http://edo.ioc.u-tokyo.ac.jp/edomin/edomin.cgi/hasbi/index.html>

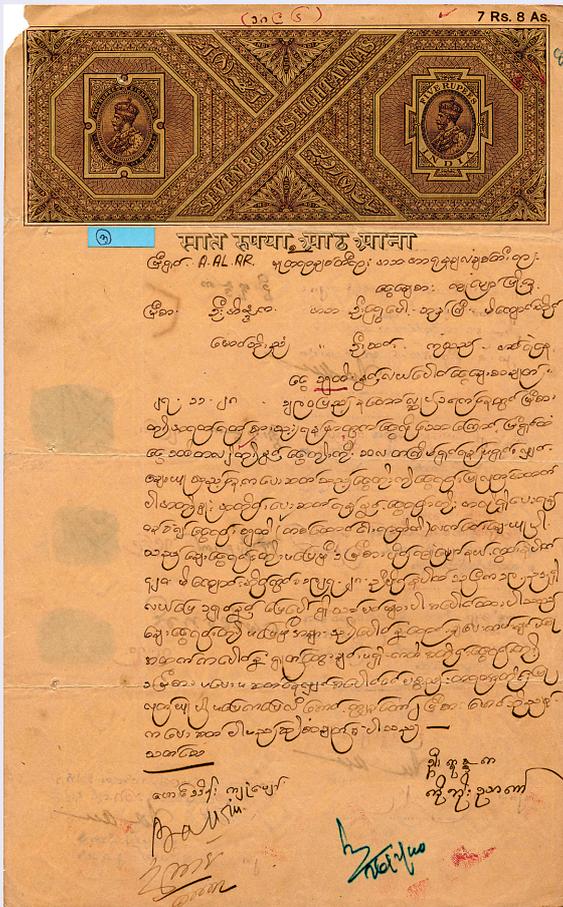
英領ビルマで作成された契約文書（7,000 枚以上）の一部の電子画像を現在の農村風景と連動させて公開しています（次ページの例を参照）。



植民地期ビルマの土地関係資料データベース

その他のプロジェクト

- アジア古籍電子図書館の構築の研究
- 貴重漢籍の保存とデジタル化
- アジア美術画像アーカイブ
- 中国美術関係資料の収集とデジタル化
- イスラーム美術作品画像アーカイブ
- 東洋文化研究所所蔵アジア写真資料データベース
- ダイバー・コレクションのデジタル化
- Tibetan-Sanskrit 構文対照電子辞書プロジェクト (eDic)
- 中世ペルシア語辞書作成
- 英領植民地ビルマにおける土地文書の整理とデジタル化
- アラビア文字圏ポリグロット・グロサリー・プロジェクト
- 旧東方文化学院蔵考古資料のデジタル化
- ヒンドゥー儀礼研究のための基礎資料
- インドネシアの更紗（バティック）画像データベース作成
- 江戸・明・古代プロジェクト



植民地期ビルマの契約文書

英領下のビルマ（1886～1947年）で作成された借金・抵当権設定・賃貸借・相続などの契約文書。ビルマ文字で書かれている。写真の例は、イラワジ・デルタのチョンビョー郡の農地の賃入文書（ビルマ暦1390年ナド一月：1928年11月）。



朝鮮活字本『六家注文選』

近年韓国で影印され『文選』研究の焦点ともなっているいわゆる「秀州」本も、本研究所はより完全な形で所蔵している。



ダイバーコレクション no. 286

イスラームの宗教詩人ジャズリー（西暦1456年没）が預言者ムハンマドを讃えた詩、『祝福の徴表と光明の煌めき』のマグリブ書体のアラビア語で書かれた19世紀の写本。



戦国貨幣

戦国貨幣には、布銭、円銭、刀銭などがある。主として布銭は中原の韓・魏・趙三国、円銭は陝西の秦国で用いられた。写真の刀銭は、主として河北の燕国や山東の斉国で用いられた。



オロン・スム出土の彩釉兔瓦下顎
（中国・内モンゴル自治区、元代）

1935、39、41年の、江上波夫氏らによる調査において採集された。先に破片の一部が報告されているが、近年の再整理で破片数点が接合し、下顎全体の形が明らかになった。

アジア農村のフィールド調査



棚田での牛耕
(ミャンマー連邦, ナムカンにて)



茶畑の草取のあと薪を背負って家路に着く少女たち
(ミャンマー連邦, ナムサンにて)



ベトナム中部高原のコーヒー収穫風景



インドネシア・マンデリンコーヒーの摘み取り作業



インドネシア・マンデリンコーヒーの乾操作業

東洋文化研究所刊行物

本研究所では、『東洋文化研究所研究報告』をはじめさまざまな形態の書籍、および雑誌『東洋文化研究所紀要』・『東洋文化』を刊行し、アジアに関するさまざまな学問の最新の研究成果と情報を発信しています。

1. 研究報告

『東洋文化研究所紀要別冊』

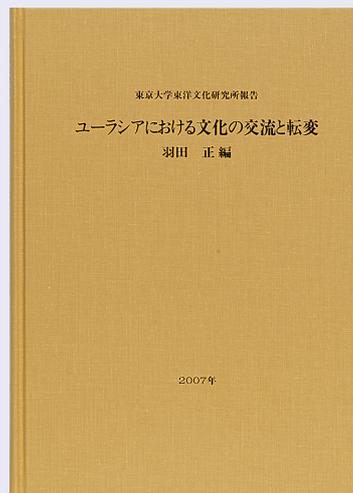
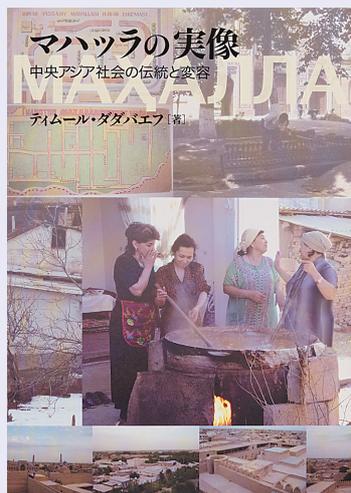
本研究所のスタッフの研究成果を収めたモノグラフ・シリーズです。通算の刊行数は60冊に達しています。最新刊のものは以下の通りです。

- ティムール・ダダバエフ『マハツラの実像』(2006年3月)

その他

本研究所では、アジア研究のレファレンス叢書としての『東洋文化研究所叢刊』、さらに調査報告、蔵書目録、記念論集等、さまざまな出版物を随時刊行しています。最新刊のものは以下の通りです。

- 羽田正(編)『ユーラシアにおける文化の交流と転変』(2007年3月 東洋文化研究所叢刊21)



2. 雑誌

『東洋文化研究所紀要』

本研究所の紀要として、本研究所スタッフおよび研究担当者、研究協力者等による最新の学術的成果に基づく論文を掲載しています。年2回刊行。2005、2006年度の刊行は以下の通りです。

- 第148冊 (2005年12月) 第149冊 (2006年3月)
第150冊 (2007年3月) 第151冊 (2007年3月)

『東洋文化』

各号に特集を設け、本研究所のスタッフを中心としたさまざまな共同研究の成果を発信しています。年1回刊行されます。過去2年間には、次の2号が刊行されました。

- 第86号 特集 日本の植民地支配と検閲体制 (2006年3月)
- 第87号 特集 イスラーム思想の諸相 (2007年3月)

International Journal of Asian Studies (IJAS)

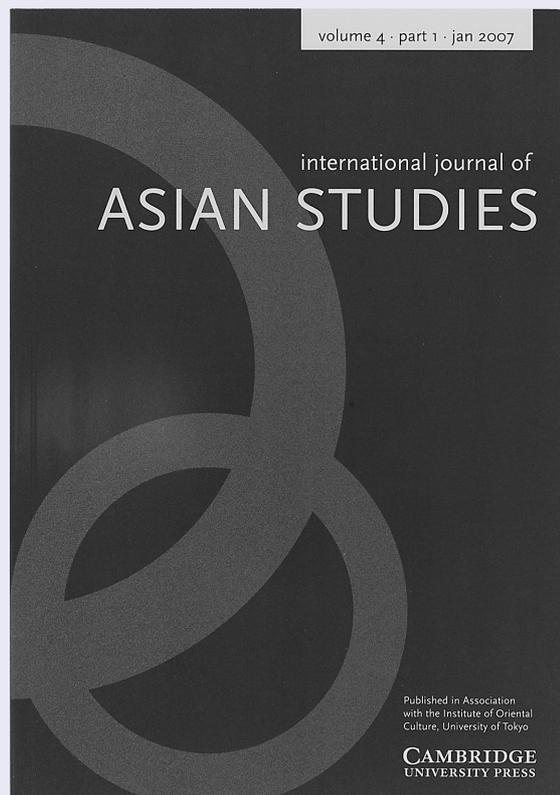
東洋文化研究所は、これまでのアジア研究のセンターとしての蓄積を踏まえ、*International Journal of Asian Studies* (IJAS) を創刊しました。

IJAS はアジアに関する主に人文・社会科学の研究成果を公刊する、国際的かつ学際的な英語による学術誌です。全世界から原稿を募集し、ケンブリッジ大学出版会より年2回刊行されます。

第1巻第1号は2004年1月に出版され、第4巻第1号(2007年1月)まで順調に刊行されています。

IJAS はアジアを地域として見る視点から、個々の国を越えたパターンや傾向を探る研究を重視しています。また、双方向的な研究交流を図る立場から、従来主にアジア諸語で業績を残してきたアジアの研究者を重視し、その優れた研究業績を英語圏の研究者の間に紹介する役割も果たしていきます。

投稿規定等詳細につきましては、本研究所ホームページをご覧ください。



東洋学研究情報センター刊行物

センターは、『東洋学研究情報センター叢刊』およびニュースレター『明日の東洋学』を刊行しています。

『東洋学研究 情報センター 叢刊』

アジア研究のレファレンス叢書として定評のあった『東洋学文献センター叢刊』を引き継ぐ文献目録シリーズです。国内外の大学図書館や東洋学研究室、研究機関等に寄贈しています。過去3年間に刊行されたのは以下の3冊です。

第5輯
東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録 2005

第6輯
東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録Ⅰ
明治の営業写真家 山本讃七郎写真資料目録その1 2006

第7輯
東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録 2007

ニュースレター 『明日の東洋 学』

センター事業の紹介、および国内外の研究者によるエッセイを掲載し、アジア学をめぐる最先端の話題を読みやすい形で提供しています。年2冊刊行で、2005年度にはNo. 14とNo. 15、2006年度にはNo. 16とNo. 17を刊行しました。バックナンバーはセンターのホームページからダウンロードできます。

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

公開講座・研究会等

本研究所では、多様な研究成果をさまざまな形で社会に還元するため、さまざまな形の講座、研究会、セミナー、シンポジウムを公開で開催しています。最新の情報については、本研究所のホームページをご覧ください。

1. 公開講座

「アジアを知れば世界が見える」を基本コンセプトとして、毎回統一テーマを設け、三蔵法師から最新の国際関係まで、アジアの歴史と現在に関するさまざまな情報を、政治、経済から歴史、宗教、美術、文学にいたる人文社会科学の多様な視角から一般向けに発信しています。

- 第1回 アジアの藝
2001年12月1日～2日
- 第2回 アジアの心
2002年11月23日～24日
- 第3回 アジアの交
2003年11月15日～16日
- 第4回 アジアの絆
2004年11月20日～21日
- 第5回 アジアの富
2005年11月19日～20日
- 第6回 アジアの暦
2006年11月18日～19日

第6回 東京大学東洋文化研究所 公開講座

2006年 11/18 Sat.
「古代東欧の謎の扉」
講師 平井 隆郎

11/19 Sun.
「ヤンマー(ピルマ)の農業と農村経済」
講師 森本 一夫

アジアを知れば世界が見える

無料

本講座は、東京大学東洋文化研究所が長年蓄えてきた知的ネットワークをもとにして、研究スタッフのわかりやすく解説するアジアを知るための公開講座です。今回は「アジアの歴史」をテーマに、アジアは今日本でも扱われている最先端の話題について、よりよい視点からアジア各地域の歴史、そして人と人々の生活のつながりなどについて、2日間の連続講座を開きます。お気軽にご参加ください。

東京大学・経済学研究科棟
地下第一階第一教室
(東京都文京区本郷7-3-1)

●交通
本郷三丁目駅(地下丸の内線・有楽町線)徒歩8分
本郷駅(丸の内線)徒歩10分
東大前駅(地下丸の内線)徒歩10分

●お問い合わせ
東京大学東洋文化研究所 庶務課
TEL: 03-5841-3838
E-Mail: kasei@cc.u-tokyo.ac.jp

2. 定例研究会

本研究所の研究スタッフが、それぞれの研究成果を公開で発表します。年6回程度開催されます。過去2年間の発表タイトルは以下の通りです。

2005年度

- 池本 幸生 「日本における不平等論——ケイパビリティからの再検討」
- 加納 啓良 「現代インドネシア経済史を書く——その骨格と時代区分」
- 森本 一夫 「東イランの地域社会とそのエリート——『バイハク地方の歴史』(12世紀後半)を素材として」
- 板倉 聖哲 「北宋中期知識人の絵画表象——『睢陽五老図』を中心に」
- 榎屋 友子 「日本とイスラーム美術」
- 原 洋之介 「アジア研究と経済学の狭間で」(最終研究報告)

2006年度

- 玄 大松 「『独島・竹島問題』の実像と虚像」
- 小寺 敦 「春秋三伝婚姻記事の比較研究試論」
- 真鍋 祐子 「韓国人と旅した中国——グローバリズムとナショナリズムのはざままで」
- 長澤 榮治 「インターナショナリストとしてナショナリズムの時代を生きる——二人のユダヤ教徒エジプト人共産主義者とパレスチナ問題」
- 菅 豊 「『歴史』をつくる人びと——異質性社会のレジティマシー」
- 名和 克郎 「帰属カテゴリー、ワード・ポリティクス、リアリティ——現代ネパールにおける社会生活の民族誌の為のメモランダム」

3. 東文研 シンポジウム, 東文研 セミナー

本研究所では、最先端の研究成果を研究者間で広く共有し社会に向けて発信すべく、一般公開の「東文研シンポジウム」「東文研セミナー」を随時開催しています。2005年度には8回の東文研シンポジウム, 31回の東文研セミナーが開催されました。2006年度も, 3回の東文研シンポジウム, 28回の東文研セミナーが開催されています。

シンポジウム, セミナーの内容は, 本研究所のプログラムや班研究の成果発表から, 中長期に海外で研究したスタッフによる帰朝報告, 書評会に至るまでバラエティに富んでいます。

例として, 次に2005年度の東文研シンポジウムの全タイトルを挙げます。

- 「International Workshop on Tantrism 2005」————— (第1回)
- 「開発のかたち：ラオス・オキナワ・ホッカイドウ」————— (第2回)
- 「公共哲学・開発・環境：ケイパビリティの視点から」————— (第3回)
- 「Community-Building and Dynamics of International Relations
in East Asia」————— (第4回)
- 「アジアから問う幸福・その3」————— (第5回)
- 「1990年代における中国メディアの良心：『読書』と『南方週末』」————— (第6回)
- 「Elites in Asian History: Social Network and Cultural Representation」————— (第7回)
- 「Partition and Independence in Heterogeneous Time」————— (第8回)



第三回東アジア研究促進ネットワーク会合 (The Third Meeting of Promotion of East Asian Studies—Network for East Asian Studies)

2007年1月29・30日 (於：東京大学山上会館) 撮影：野久保雅嗣

国際交流

国際交流は、アジア研究のセンターとしての研究所の活動の中核をなすものであり、所員の外国出張はもとより、各国の大学との学術交流協定を結び、多くの外国人外研究者を受け入れるなど、さまざまな形での交流を行ってきました。加えて2001年には国際学術交流室を設置し、より一層の情報発信と相互交流の展開を目指しています。

1. 国際学術交流室

国際学術交流室は、本研究所の国際学術交流を推進するため2001年に新たに設置されました。本研究所が編集の中核を担い、ケンブリッジ大学出版会より2004年に刊行が開始された英文の国際学術雑誌 *International Journal of Asian Studies* の編集業務をはじめとして、本研究所の国際学術交流の中核としての役割を担っています。

2. 交流協定

本研究所は、東京大学と中国・復旦大学（1991-）およびシンガポール国立大学（2006-）との学術交流協定の担当部局として、両大学との交流の中核を担っています。

また本研究所は、香港大学アジア研究センター（1995-）、シンガポール国立大学人文・社会科学部（1997-）、フランス高等研究院（2005-）、ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部（2005-）、カルカッタ大学歴史学部（2006-）、ベトナム・タイグエン大学経済経営学部（2006-）との間で部局間交流協定を結び、アジア各国の研究者との交流を積極的に推進してきました。

3. 外国出張

研究所スタッフの外国出張の件数は、2004年度128件、2005年度121件のほりました。国別、期間別の数字（延べ人数）は以下の通りです。

国名	2004年度		2005年度		国名	2004年度		2005年度	
	1か月以上	1か月未満	1か月以上	1か月未満		1か月以上	1か月未満	1か月以上	1か月未満
中国	0	11	0	27	タジキスタン	0	0	0	1
台湾	1	12	0	10	イラン	0	1	0	0
韓国	0	15	0	3	エジプト	0	1	0	1
インドネシア	0	10	0	8	トルコ	0	0	0	3
タイ	0	12	1	5	バハレーン	0	0	0	1
シンガポール	0	3	0	5	イギリス	3	8	1	8
ベトナム	0	5	0	3	イタリア	0	1	0	3
ラオス	0	4	0	1	フランス	0	5	1	3
ミャンマー	0	2	1	0	スイス	0	1	0	0
マレーシア	0	2	0	4	ベルギー	0	1	0	0
カンボジア	0	2	0	0	ドイツ	0	1	0	0
フィリピン	0	1	0	0	オーストリア	0	1	0	0
ブルネイ	0	1	0	3	オランダ	0	0	0	1
インド	1	3	1	3	ポーランド	0	1	0	0
バングラデシュ	0	1	0	0	アルバニア	0	1	0	0
ネパール	0	0	0	1	ロシア	0	1	0	0
ウズベキスタン	1	1	0	3	アメリカ合衆国	0	9	1	11
キルギス	0	2	0	1	オーストラリア	0	2	1	4
カザフスタン	0	1	0	1	計	6	122	7	114

4. 海外との
図書
の寄贈・交換

海外の研究機関との間で、『東洋文化研究所紀要』、『東洋文化』、『センター叢刊』、『明日の東洋学』等の本研究所およびセンター発行の図書の寄贈並びに交換を行っています。寄贈・交換先は33か国、383機関に及んでいます。なお、国内については261機関と寄贈・交換を行っています。

5. 外国人研
究者等
の受け入れ**Mustafa Chowdhury**

(University of Dhaka, Professor, 2004/6/1-2005/5/31)

林 義強

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2004/4/1-2006/3/31)

陳 世崇

(Oxford University, Ph. D. Candidate, 2004/9/1-2005/8/31)

Lalima Varma

(Centre for East Asian Studies, School of International Studies, Jawaharlal Nehru University, Chairperson and Associate Prof., 2005/1/10-2006/1/9)

陳 韻如

(国立故宫博物院副学芸員, 2005/4/1-2005/9/30)

Bat Batjargal

(Harvard University, Visiting Professor, 北京大学助教授, 2004/10/1-2005/7/31)

玄 大松

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2004/9/1-2006/3/31)

Park Seo-Hyun

(Cornell University, Ph. D. Candidate, 2004/9/17-2005/8/31)

Ian Astley

(University of Edinburgh, Senior Lecturer and Convenor of Japanese, 2005/1/26-2006/12/31)

梁 基雄

(翰林大学校政治外交学科副教授, 2004/10/21-2005/9/30)

馬 淑萍

(国務院発展研究中心企業研究所研究官, 2004/10/1-2005/9/30)

Hoyt Long

(ミシガン大学アジア言語文化学部博士課程, 2004/12/1-2005/11/30)

娜 鶴雅

(中国人民大学清史研究所助理研究員, 2005/4/1-2006/3/31)

王 笛

(Texas A & M University, Associate Professor, 2005/2/1-2005/8/31)

陳 応和

(中国現代国際関係研究院法学博士コース, 2005/5/1-2005/10/31)

金 菜植

(成均館大学校文学部一般大学院漢文学科博士課程, 2005/3/1-2006/2/28)

Pai Hyung il

(University of California, Santa Barbara, Associate Professor, 2005/3/1-2005/3/31)

Xavier Paules

(Institut d'Asie Orientale, Ph. D. Student, 2005/10/24-2007/10/23)

賀 照田

(中国社会科学院・文学研究所副研究員, 2005/9/22-2006/7/21)

姚 勝旬

(2005/4/11-2007/4/10)

李 春光

(中国社会科学院日本研究所所長室副主任, 2005/4/21-2007/3/31)

Cesar de Prado

(United Nations University, Comparative Regional Integration Studies, Research Fellow, 2005/5/16-2007/4/15)

Fei-ling Wang

(Georgia Institute of Technology, Professor, 2005/5/31-2006/8/31)

Yongwook Ryu

(Harvard University, Ph. D. Student, 2005/9/1-2006/8/31)

劉 東勝

(北京大学国際関係学院博士課程, 2005/9/1-2006/3/31)

李 元徳

(国民大学社会科学大学副教授, 2005/10/1-2006/9/30)

古 怡青

(国立台湾大学博士候補生, 2006/6/28-2006/9/28)

呂 紹理

(国立政治大学副教授, 2006/1/10-2006/2/4)

李 少軍

(武漢大学歴史系教授, 2006/8/1-2007/1/31)

臧 清

(北京語言大学漢語学院助教授, 2006/3/10-2006/7/21)

陳 志勤

(日本学術振興会外国人特別研究員, 2006/4/1-2008/3/31)

H. S. Prabhakar

(Centre for East Asian Studies, Jawaharlal Nehru University, Chairperson, 2006/3/13-2006/6/12)

Richard von Glahn

(University of California, Los Angeles, Professor, 2006/4/20-2006/8/21)

孫 基燮

(ソウル大学国際大学院研究教授, 2006/7/20-2008/3/31)

李 錫熙

(Harvard University, Ph. D. Candidate, 2006/8/11-2007/6/30)

Hecht Spencer

(University of Hawaii, Lecturer, 2006/9/1-2007/8/31)

教育・国内交流

1. 大学院教育

本研究所は以下の研究科に協力講座を出し、大学院教育を分担しています。

研究科	専攻	講座名
人文社会系	基礎文化研究	東アジア美術史学
	アジア文化研究	比較アジア社会文化研究, 南アジア社会文化研究, 西アジア社会文化研究
法学政治学	基礎法学	学際法学, 学際政治学
経済学	現代経済	アジア経済
	経済史	アジア経済史
総合文化	超域文化科学	比較民族誌
	地域文化研究	環インド洋地域文化
	国際社会科学	比較現代政治
農学生命科学	農業・資源経済学	汎アジア経済論
新領域創成科学	環境学研究系	
	国際協力学専攻	地域間連関・交流

学際情報学府

大学院における授業担当教員および指導学生数は以下の通りです。

研究科	2005				2006			
	授業担当	指導学生			授業担当	指導学生		
		修士	博士	研究生		修士	博士	研究生
法学政治学	3	3	2	1	2	3	4	4
人文社会系	15	15	18	3	14	16	17	3
農学生命科学	2	2	5		1	0	1	
経済学	3	2	2		3	3	2	
新領域	1	3			1	2	5	
総合文化	10	6	9		8	7	15	
情報学環	4	2	6		2	1	3	
公共政策	1							
(ASNET)					7			

2. 学部担当

本研究所では、学部1, 2年生を対象とした「全学自由ゼミナール」を断続的に担当しています。また、多くの教員が様々な学部で3, 4年生を対象とした講義を行っています。

学部	2005	2006
法	1	1
経		1
文	5	5
教養	5	4
農	1	1
工	1	1

3. 日本学術振興会特別研究員の受入れ

氏名	年度	研究課題
小寺 敦	2003-2005	「詩経」および出土史料による先秦時代の婚姻・家族研究
水野明日香	2003-2005	植民地期ミャンマーの土地制度史
木村真希子	2004-2006	先住民と移民の権利衝突と平和的解決への模索 —インド・アッサム州を事例に—
武井 泉	2004-2005	農村・農業のセーフティネットと農村労働力移動に関する実証研究 —タイの事例から—
古橋 紀宏	2004-2006	魏晋南北朝時代における礼学の研究
小笠原弘幸	2004-2005	オスマン帝国における歴史叙述及び歴史意識に関する史学的研究
黛 秋津	2004-2005	ロシア・オスマン・ヨーロッパ関係の中のワラキア・モルドヴァ問題
渡辺 美季	2005-	近世琉球と中日の支配論理
松浦 史子	2006-	六朝文学における『山海経』の受容を巡って—図像と文献の接点—
赤城美恵子	2006-	清代における秋審條款の研究

4. 私学研修員の受入れ

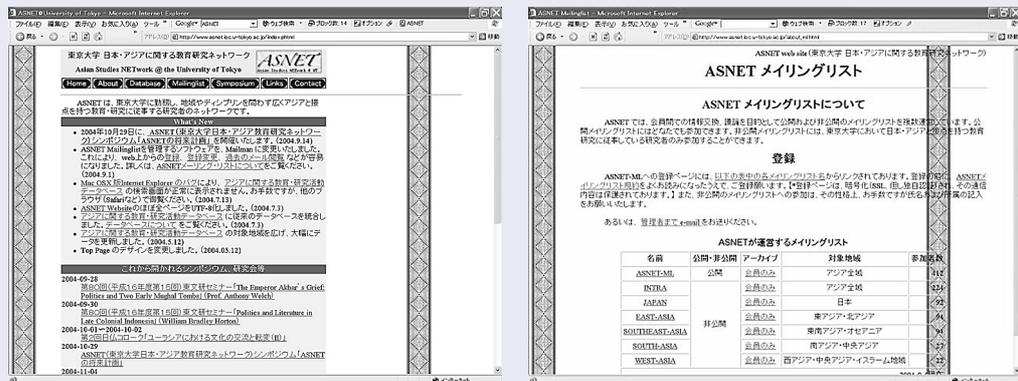
氏名	所属	年度	研究課題
小川 隆	駒澤大学教授	2006	唐宋代禅宗思想史の研究

ASNET 推進室への支援

ASNET (Asian Studies Network, 「日本・アジアに関する教育研究ネットワーク」) は、東京大学において、日本・アジアと接点を持つ教育研究に従事している研究者間の研究協力や情報交換を容易にし、新しい教育や研究の可能性を探るために設立されました。文系・理系を問わず、日本以外のアジアを対象とする教育研究(従来の“アジア研究”)や、何らかの点でアジアと関連を持つ日本についての教育研究に携わる既存の各部署の研究者が、このヴァーチャルなネットワークによってつながり、お互いに有益な情報を交換することを第一の目標とし、同時に、このネットワークの活用によって個人の研究が進展し、新しい形の研究協力や教育が可能になることを目指しています。

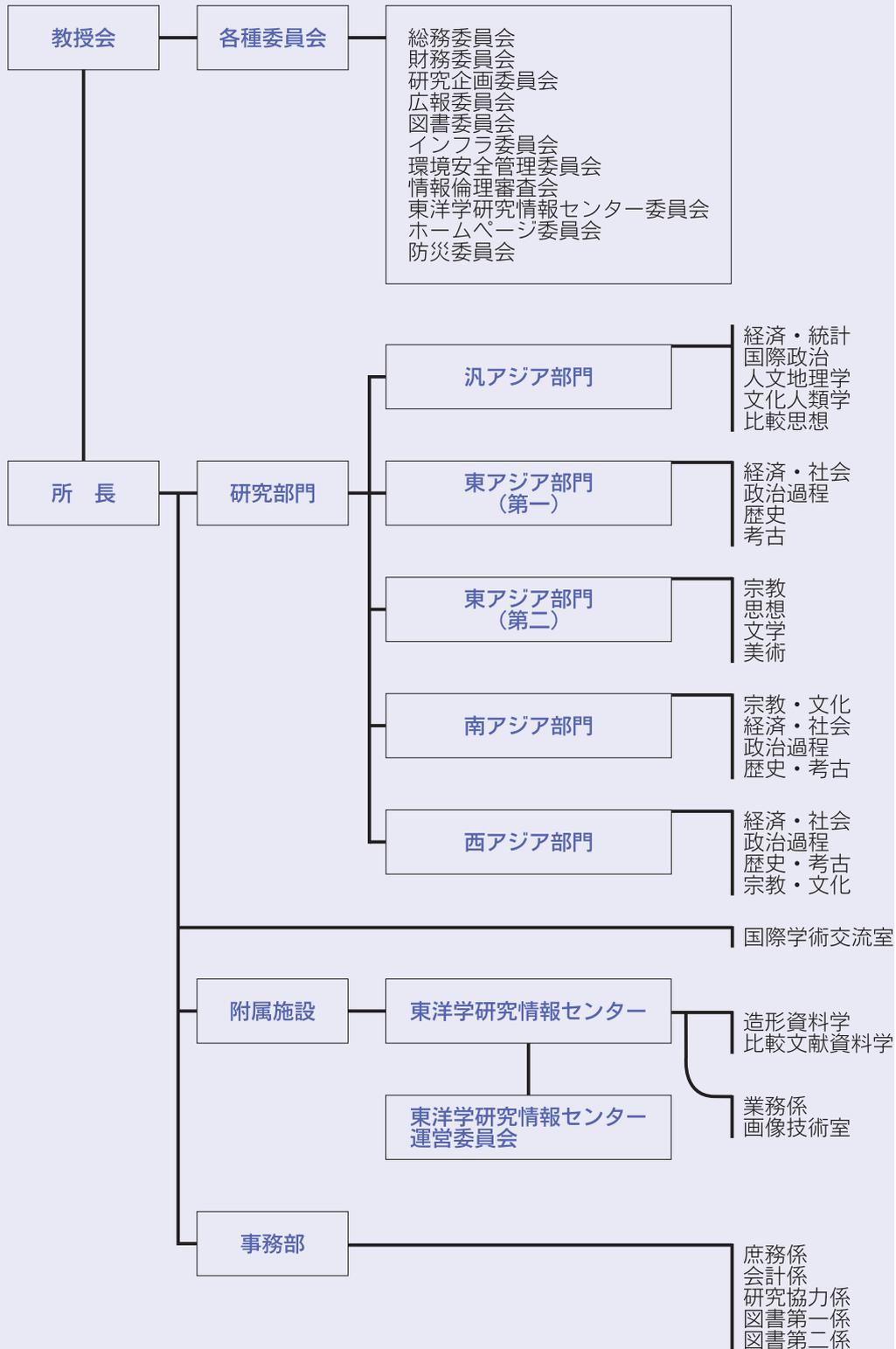
東洋文化研究所では、2005年9月に設立されたASNET推進室の活動に全面的に協力しています。

また、ASNETが企画した新しい大学院教育プログラム「日本・アジア学講座」の一環として、2006年度には「アジアにおける環境・開発・歴史」、「アジアから問う幸福」、「アジア研究のフィールドワーク」を開講しました。



ASNET ホームページ
(http://www.asnet.dir.u-tokyo.ac.jp/index.phtml)

組織構成図



現教職員 (2007年4月1日現在)

所長

関本 照夫

副所長

鎌田 繁

汎アジア部門

池本 幸生 教授
田中 明彦 教授(兼)
松井 健 教授
菅 豊 准教授
関本 照夫 教授
名和 克郎 准教授
大川 謙作 助教

東アジア部門 (第一)

高見澤 磨 教授
安富 歩 准教授
(2007年4月1日転入)
黒田 明伸 教授
真鍋 祐子 准教授
平勢 隆郎 教授
小寺 敦 准教授

東アジア部門 (第二)

丘山 新 教授
橋本 秀美 准教授
(2007年4月1日採用)
尾崎 文昭 教授
大木 康 教授
山内 文登 助教
板倉 聖哲 准教授

南アジア部門

加納 啓良 教授
高橋 昭雄 教授
中里 成章 教授
永ノ尾信悟 教授(兼)
馬場 紀寿 助教

西アジア部門

鈴木 董 教授
長澤 榮治 教授
羽田 正 教授
榎屋 友子 教授
鎌田 繁 教授
森本 一夫 准教授

国際学術交流室

関守ゲイノー 准教授

附属東洋学研究情報センター

センター長
小川 裕充 教授
榎屋 友子 教授(兼)
丘山 新 教授(兼)
玄 大松 准教授
保城 広至 助教

非常勤講師*

深見奈緒子
吉野(谷垣)馨子
ティムール・タダバエフ
梅田 雅子
水野明日香
鈴木 恵美
山本 和也
林 鳴宇
久米 高史
近藤 光博
西 英昭

* = 2005~2006年度

事務部

事務長
佐沼 繁治
専門員(研究協力担当)
岡本 勝壽
主査(総務担当)
永嶋 智明
主査(図書担当)
栗林久美子

庶務係

庶務係長(兼)
永嶋 智明
庶務係主任
亀原 弥生
庶務係主任
土居 明彦

会計係

会計係長
池田 洋
会計係主任
坂上 俊宏
係員
飯塚 美路

研究協力係

研究協力係主任
中村 明彦

図書第一係

図書第一係長(兼)
栗林久美子
係員
渋谷 義治
係員
田崎 淳子

図書第二係

図書第二係長
山口 香織
係員
塩川 由紀
係員
安食 優子

業務係

業務係長
笠井 伊里

画像技術室

技術職員
野久保雅嗣

私学研修員

小川 隆

駒澤大学 教授
2006
唐宋代禅宗思想史の研究

教職員の異動（2006～2007年）

教授 原洋之介

2006（平成18）年3月31日定年退職

助教授 ティムール・タダバエフ

2006（平成18）年3月31日任期満了

助手 榎本 渉

2006（平成18）年3月31日辞職

助手 藪下ネーナパー

2006（平成18）年3月31日辞職

助教授 真鍋祐子

2006（平成18）年4月1日採用

助教授 小寺 敦

2006（平成18）年4月1日採用

助教授 玄 大松

2006（平成18）年4月1日採用

助手 大川謙作

2006（平成18）年4月1日採用

助手 山内文登

2006（平成18）年4月1日採用

助手 馬場紀寿

2006（平成18）年4月1日採用

助教授 榎屋友子

2007（平成19）年4月1日教授に昇任

准教授 橋本秀美

2007（平成19）年4月1日採用

准教授 安富 歩

2007（平成19）年4月1日転入

主査（総務担当） 細淵静夫

2006（平成18）年4月1日転出

主査（総務担当） 関 辰男

2006（平成18）年4月1日転入

会計係長 瀧口節生

2006（平成18）年7月1日転出

図書第二係員 藁谷美枝子

2006（平成18）年7月1日転出

図書第二係員 大川直子

2006（平成18）年7月1日転出

会計係長 池田 洋

2006（平成18）年7月1日転入

図書第二係長 山口香織

2006（平成18）年7月1日転入

図書第二係員 安食優子

2006（平成18）年7月1日転入

主査（図書担当） 栗林久美子

2006（平成18）年7月1日図書第二係長兼務を免じ、
図書第一係長兼務を命ずる

事務長 小川勝美

2006（平成18）年9月30日辞職

事務長 佐沼繁治

2006（平成18）年10月1日転入

主査（総務担当） 関 辰男

2007（平成19）年4月1日転出

専門員（研究協力担当） 岡本勝壽

2007（平成19）年4月1日転入

庶務係長 永嶋智明

2007（平成19）年4月1日主査（総務担当）に昇任
（庶務係長兼務）

歴代事務長

在職期間

山高 力三 1941.11.27-42. 9.30

根本 喜蔵 1942.10. 1-44. 7. 9

長内太郎吉 1944. 7.10-54. 7.15

工藤松之助 1954. 7.16-63.10.31

宮本 健 1963.11. 1-69. 2.28

新井 康次 1969. 3. 1-74. 3.31

斎藤 益 1974. 4. 1-77. 6.30

三浦 皓守 1977. 7. 1-81. 3.31

伊東秀三郎 1981. 4. 1-83. 3.31

岡部 藤男 1983. 4. 1-86. 3.31

木内 義一 1986. 4. 1-90. 3.31

江澤 兵治 1990. 4. 1-92. 6. 1

石川 純男 1992. 6. 1-95. 3.31

千葉 勝志 1995. 4. 1-97. 3.31

小林 邦男 1997. 4. 1-99. 3.31

石井 金夫 1999. 4. 1-2001.3.31

柿沼 肇 2001. 4. 1-2004.3.31

小川 勝美 2004. 4. 1-2006.9.30

佐沼 繁治 2006.10. 1- 現在

名誉教授

称号授与

川野 重任 1972. 5

窪 徳忠 1974. 5

鈴木 敬 1981. 5

荒 松雄 1982. 5

山田 三郎 1992. 5

松井 透 1987. 5

中根 千枝 1987. 5

尾上 兼英 1988. 5

山崎 利男 1990. 5

板垣 雄三 1991. 5

池田 温 1992. 5

田仲 一成 1993. 5

友杉 孝 1993. 5

松丸 道雄 1995. 5

松谷 敏雄 1997. 5

蜂屋 邦夫 1999. 5

岡本 廿工 2001. 5

後藤 明 2002. 5

濱下 武志 2004. 5

猪口 孝 2005. 5

柳澤 悠 2005. 5

原 洋之介 2006. 5

財 政

1. 財政

2005 年度			
収入 (千円)		支出 (千円)	
大学運営費	252,782	教育研究経費	154,016
部局長裁量経費	10,741	一般管理費	6,660
科研間接経費	4,470	物件費	107,275
科学研究費	119,300	旅 費	64,388
寄付金	8,388	賃金・謝金等	36,114
		翌年度繰越	27,228
合 計	395,681	合 計	395,681

2006 年度			
収入 (千円)		支出 (千円)	
大学運営費	262,258	教育研究経費	131,415
部局長裁量経費	10,741	一般管理費	2,946
科研間接経費	5,985	物件費	96,980
科学研究費	116,450	旅 費	60,313
寄付金	5,876	賃金・謝金等	38,899
前年度からの繰入	27,228	翌年度繰越	90,328
		大学本部へ返還	7,657
合 計	428,538	合 計	428,538

2. 科学研究費

2005 年度		
研究種目	交付決定額(千円)	件数
特定領域研究	19,000	3
基盤研究 A	44,700	5
基盤研究 B	12,200	3
基盤研究 C	3,500	2
萌芽研究	2,100	1
若手研究 B	3,200	2
特別研究員奨励費	10,400	13
研究成果公開促進費	24,200	3
合 計	119,300	32

2006 年度		
研究種目	交付決定額(千円)	件数
特定領域研究	24,000	3
基盤研究 A	35,500	4
基盤研究 B	9,700	2
基盤研究 C	3,300	3
萌芽研究	1,400	1
若手研究スタートアップ	4,050	3
特別研究員奨励費	10,600	11
研究成果公開促進費	27,900	3
合 計	116,450	30

3. その他の経費

トヨタ財団助成金	2005	
三菱財団人文科学研究助成金	2005	
第十九回環太平洋学術研究助成費	2005	
トヨタ財団 2005 年度研究助成金	2005	2006
鹿島美術財団研究助成金	2005	

平成 18 年度稲盛財団研究助成金	2006
第 44 回 (平成 18 年度)	
三島海雲記念財団学術奨励金	2006
韓国海洋水産開発院助成金	2006

施 設

1941 年 11 月	東京帝国大学附属図書館内に新設
1948 年 9 月	文京区大塚町 56 旧東方文化学院建物に移転。附属図書館内に分室をおく 敷地面積 5,081.22 m ² 本館建物面積 3,012.5 m ²
1965 年 10 月	本郷構内新庁舎第 1 期工事完成により一部移転
1968 年 7 月	本郷構内新庁舎に全面移転完了
1982 年 3 月	総合研究資料館と交換分合し、全館を使用

	建物面積 6,577 m ²
1984 年 3 月	全面改修工事完成
2006 年 2 月	研究所建物の耐震補強工事が必要であることが判明 同年 7 月以降 研究室・事務室・図書・研究資料の仮移転を実施
2007 年 8 月	研究所建物耐震補強・改修工事開始 (2008 年 3 月までに工事完了見込み)

【主要所蔵図書】

[大木文庫]

本研究所創設時に、大木幹一氏より中国法制関係書総数 3,168 部、45,452 冊の寄贈を受けた。公牘類の数百部は本文庫の柱梁をなし、法律関係の貴重書をはじめ、明清以後の時期の研究には不可欠の蒐集資料である。1959 年に『東京大学東洋文化研究所大木文庫分類目録』が編纂され、刊行された。

[帝国学士院東亜諸民族調査室旧蔵書]

1944 年帝国学士院東亜諸民族調査室の解散にともない、その蔵書の和漢洋書・雑誌・資料等 2,000 冊が移管された。このなかには西欧におけるアジア諸民族研究の主要な文献が集められている。

[東方文化学院旧図書]

1929 年に、東方文化に関する研究機関として、外務省所管の東方文化学院東京研究所が創設されたが、1948 年に廃された。その旧蔵書と漢洋あわせて 103,587 冊が、1967 年 3 月に本研究所に移管された。漢籍の中核は、1929 年に中国浙江省の徐則恂氏より一括購入した東海蔵書楼蔵書である。

[松本忠雄氏旧蔵書]

1949 年度科学研究費により松本忠雄氏旧蔵の和漢洋書、雑誌など約 3,000 冊を購入した。とくに近代中国研究資料として重要なものがある。

[雙紅堂文庫]

1951・53 両年度科学研究費により、長澤規矩也氏旧蔵の約 3,000 冊を購入した。その内容は明清時代の戯曲小説類である。1961 年 1 月、本研究所創立 20 年にあたり、同氏から約 150 冊の補充を得るとともに、『雙紅堂文庫分類目録』を刊行した。

[清野文庫]

1952・53 両年度科学研究費により、清野謙次氏旧蔵洋書 750 冊を購入した。人類学・考古学関係のものを根幹とする。1978 年 3 月に『東京大学東洋文化研究所清野文庫分類目録』を刊行した。

[矢吹慶輝氏旧蔵書]

1952 年度科学研究費により、矢吹慶輝氏旧蔵洋書約 360 冊を購入した。英仏独のマニ教の文献を中心とし、仏教遺跡の発掘報告書も含まれている。

[下中文庫]

下中弥三郎氏より、1953 年 1 月から 1957 年 6 月までの、戦後出版の中国書 4,500 冊、中国雑誌 10 種および戦後出版の東洋関係洋書 130 冊の寄贈を受けた。

とくに中国書は、当時入手できた書の主要なものをほとんど網羅している。

[東京銀行調査部旧蔵資料]

1959・60 両年度にわたり、東京銀行調査部所蔵の経済関係書を主とする和漢書・資料類約 18,000 冊の寄贈を受けた。

[仁井田文庫]

本研究所名誉教授仁井田陞氏の逝去（1966 年 6 月）後、所蔵の中国書 5,000 冊、洋書 120 冊、和書 2,200 冊、清代公私文書類 900 余点、50 基の碑文の拓本を受け入れた。大木文庫とともに旧中国の社会研究に重要なものである。1999 年 3 月に『東洋学文献センター叢刊 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 附和洋書』を刊行した。また清代公私文書類も「東京大学東洋文化研究所 仁井田陞博士蒐集中国文書目録（稿）」として整理した。

[我妻文庫]

我妻栄氏の逝去（1973 年 10 月）後、所蔵の和洋法学文献および各種資料が東京大学に寄贈された際、本研究所はとくにアジア法制関係文献資料総数 647 部 932 冊の寄贈を受けた。1982 年 3 月に『我妻栄先生旧蔵アジア法制関係文献資料目録』を刊行した。

[倉石文庫]

1975 年度に本学名誉教授倉石武四郎氏の漢籍を主とする蔵書を収蔵することとなり、1981 年度までにその重要な部分、漢籍約 4,300 点、現代中国書 2,300 冊、および和洋書 3,400 冊を購入した。

[江上文庫]

1981・82・84 各年度にわたり、本学名誉教授江上波夫氏の蔵書のうち、歴史学、民族学、考古学を中心とした洋書の一部約 2,550 点を購入した。

[Daiber Collection I, II]

1986・87・94 年度にわたり、東洋学文献センターと協力し、ハンス・ダイバー氏の蒐集した計 487 点の写本を購入した。イスラームの宗教、思想、歴史に関する重要な資料である。1988/96 年に Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection I/II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber を刊行した。

[文淵閣四庫全書影印本]

1988 年度に文淵閣本四庫全書影印本（索引つき）全 1,501 冊を購入した。清代以前の中国の古典文献を網

羅した最も基本的な叢書で、中国研究上不可欠の重要性をもっている。

[オランダ植民地省公文書索引およびジャワ官報]

1989年度に、マイクロフィッシュ化された資料一式を購入した。前者はオランダ国立公文書館所蔵の旧植民地省文書（1850年～1921年）の索引書数百巻分を網羅し、後者はインドネシアのオランダ植民地政府が1928年～1939年に公布した官報の集成である。

[乾隆版大蔵経]

1990年度に全724函（毎函10冊）、大清三蔵聖教目録一函（5冊）を購入した。中国最後の木版大蔵経で、1,657部の仏教典籍が収録されている。漢文の大蔵経で経版木が保存されているものは、高麗蔵とこの乾隆版のみで、きわめて貴重な資料である。

[Ouseley Collection]

イギリスの外交官で東洋学者のG. Ouseley 卿（1770～1844）の旧蔵書の一部。17世紀から19世紀にかけてのヨーロッパ人のインド、中近東への旅行記とペルシア文学作品を主とした60点、全106冊からなる。Ouseley自身の書き込みが随所に見られる点など、資料的価値が高い。

[Müteferrika Collection]

1727年にオスマン帝国の首都イスタンブールで開設された、最初のムスリム経学の活版印刷所で刊行された書籍17点。イスラム世界における最初期の刊本。

[南アジア伝導教団資料集成]

南アジア各地で伝導活動を行ったキリスト教団の、18世紀末から20世紀までの年報、諸会議の議事録、往復文書、報告書等を含んだマイクロフィッシュ資料である。

[Indonesian Monographs, 1945—1973]

オランダの王立・言語・地理・民族学研究所が蒐集した、独立後インドネシアの社会科学関係出版物3,258点をマイクロフィッシュにまとめたもの。内容はきわめて多彩で、インドネシア現代史の研究に不可欠の資料集である。

[今堀文庫]

広島大学名誉教授今堀誠二氏の逝去（1992年10月）後、所蔵の漢籍300点、中国書2,000冊、文書資料500点を購入した。近現代中国の社会史資料、華僑史資料など多くの原資料を含む。（1994年度一般設備費）

[東アジア宗族社会史関係資料]

東アジア全域にわたる宗族社会史の比較研究に重要な資料集。朝鮮族譜集成494冊、中国華南宗族社会史資料、南洋華僑・華人関係資料2,263冊からなる。

族譜、社会、華人史の基本資料として貴重な資料である。（1995年度一般設備費）

[中国西北文献叢書]

陝西、甘肅、寧夏、青海、新疆などの中国西北地方に関する、歴史、地理、民俗、文学そのほかの諸分野の基本文献を網羅した叢書。（1995年度一般設備費）

[オスマン語・トルコ語年鑑定期刊行物コレクション]

トルコにおいてオスマン語および現代トルコ語で刊行された年鑑類、定期刊行物。19世紀初頭オスマン帝国時代の国家年鑑や、西アジア各地方およびバルカンに関する公的な年鑑など、政治、社会、経済から文化にいたる広汎な分野を網羅し、近現代の西アジア研究者にとって類例の少ない貴重な資料群である。（1996年度一般設備費）

[西アジア関連写本集成]

ミンガナ・コレクション、ロンドン大学東洋アフリカ研究所などが所蔵するアラビア語を中心としたマイクロフィッシュによる写本集成。クルアーン学から、法学、文学、自然科学、歴史学、宗教諸学を含むイスラームを中心とした西アジアの思想・文化・歴史の研究に不可欠の資料である。（1996年度一般設備費）

[中国第一歴史档案館所蔵清代档案資料]

1997年度に標記档案資料のマイクロフィルムを購入した。内容は「宮中硃批奏摺財政類」「軍機処録副奏摺全国水利雨水自然災害資料」「内閣京察冊」「宮中履歴片」「戸部一度支部棒銀米冊」「琿春副都統衙門档案」「刑法部胎谷案」「吏部造送封贈姓氏冊」「清代琉球档案史料」である。これらは総数一千万件におよぶ中国第一歴史档案館所蔵の清朝公文書の一部を成すものであり、清代中国の政治・制度・経済・社会の分析において極めて重要な第一次資料である。（1997年度一般設備費）

[夕嵐草堂文庫]

本学名誉教授前野直彬氏の逝去（1998年1月）後、小説類に特色を持つ所蔵の漢籍約500点4,400冊を購入し、「夕嵐草堂文庫」と名付けた。中に貴重な版本を含んでいる（1998年度リーダーシップ支援経費）。2003年3月に『東洋学研究情報センター叢刊2 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録』（山之内正彦編）を刊行した。

[伊藤文庫]

京都大学名誉教授故伊藤義教氏の古代・中世イラン関係旧蔵書849冊。古代・中世イラン語テキスト類を中心としている。『東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤

義教文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2004年）が刊行されている。

[田中則雄氏旧蔵書]

田中則雄氏が収集したインドネシアに関するオランダ語を中心とする洋書文献コレクション。『東京大学東洋文化研究所蔵田中則雄氏旧蔵書目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2002年）が刊行されている。

[安田文庫旧蔵『論語』コレクション]

昭和戦前期における古文書・古籍のコレクションとして名高い「安田文庫」旧蔵の『論語』各種和刻本9点ほか2点を、収集者安田善二郎（二代目）氏の直孫である安田弘氏から無償寄贈されたもの。なかでも正平版『論語』（単跋早印本，室町時代，15世紀前半の刊本）は、日本で仏教経典以外では最初の木版印刷の書籍であるとともに、六朝時期における『論語』の姿を伝えるテキストとして、今日でもきわめて珍重されているものである。

【主要所蔵資料】

[殷代甲骨]

本研究所所蔵甲骨は、次の三部分からなる。第一は、故河井仙郎氏旧蔵の1,708片で、1979年に現蔵者井上富美子氏より寄贈された。第二は故田中慶太郎氏旧蔵の393片で、1979年に購入した。第三は旧蔵者三浦清吾氏より寄贈された2片である。合計2,103片に達し、京都大学人文科学研究所に次ぐ、わが国有数の蒐集である。これは、整理・綴合の上、松丸道雄『東京大学東洋文化研究所蔵甲骨文字 図版篇』（東京文化研究所報告1983年）として刊行された。

[中国歴史古銭・銭范]

旧東方文化学院の蒐集品で、殷代の貝貨、戦国時代の布銭・刀銭・郢爰からはじまり、歴代の代表的貨幣を収蔵する。約1,250点の古銭と、10点の銭の范模を含む。

[中国考古資料]

上記の甲骨、古銭以外に、瓦当約110点、鏡、戈、戟、鏃などの青銅器、玉器、土器、磚、磚製買地券、壁面片、俑、仏像、衣服、室内装飾品、土俗品がある。大部分は旧東方文化学院が購入し、本研究所に移管されたものである。

[上村文庫]

マハーバーラタの日本語全訳など、古典サンスクリット詩学に関する研究で多大な成果をあげられた東洋文化研究所故上村勝彦教授の旧蔵書で、古典サンスクリット文学・詩学、インドの古典学問、宗教・哲学に関する文献を主体とする658点のサンスクリット語典籍である。

[タイ語文献コレクション]

友杉孝本学名誉教授からご寄贈いただいた文献2,185点を基礎に、2,728冊のタイ語文献から構成されている（2006年3月現在）。東南アジア歴史・地理を中心にした貴重な資料である。

[荒木文庫]

我国の波斯（ペルシア）語研究の先駆者である荒木茂氏が財団法人啓明会の補助を受け、1922年から1931年にかけて収集された波斯（ペルシア）関係の辞典、紀行、歴史、言語、美術等に関する洋書938点1,112冊である。『東京大学東洋文化研究所蔵荒木茂文庫目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター，2007年）が刊行されている。

[中国絵画資料（原版・焼付写真・カラーズライド等）]

米国、カナダ、欧州、アジアの美術館、個人蒐集家が所蔵する中国絵画、および日本現存の中国絵画に関するものが主体で、その他に米国ミシガン大学アーカイヴより購入した中国絵画の焼付写真、東京国立文化財研究所原版からの焼付写真等があり、現在約20万点にのぼる。「東洋学文献センター叢刊」として10冊の目録が1977～83年、1992年～98年の両度にわたって刊行され、図録は東京大学出版会より『中国絵画総合図録』（全5巻）が1982年～83年、『同 続編』（全4巻）が1998年～2001年の両度にわたって刊行された。

[中国清代・民国期の文書資料]

17世紀から20世紀におよぶ、北京をはじめ嘉興、武進、蘇州、通州、宝応、鳳山などの土地文書を中心とし、その他公私文書類約二千数百点がある。仁井田陞名誉教授旧蔵遺贈分や旧東亜研究所収集文書等を含む。目録と内容の一部は、1983年～86年に『東洋文化研究所蔵中国土地文書目録・解説（上）（下）』（東洋学文献センター叢刊）として刊行された。（整理中）

[内蒙古出土学術資料]

江上波夫名誉教授が戦前に内蒙古で発掘・採集した資料約1万点が、1983年に寄贈された。主として土器片・陶器片である。資料の一部は江上氏のいくつかの論文に掲載されているが、圧倒的多数は未発表のものである。

[インド・イスラム史跡調査関係資料]

デリーおよびインド各地に現存するデリー・スルタン朝時代のムスリム遺跡に関する資料で、写真、実測図などが主なものである。1959年～62年度に「東京大学インド史跡調査団」が実施した現地調査の成果の一

【交流協定】

[香港大学アジア研究センターとの学術交流協定]

本研究所が交流拠点の役割を果し、東京大学の海外学術研究拠点を強化する一環として、1995年10月本研究所は香港大学アジア研究センターとの間に交流協定を結び、共同研究を開始し、2000年10月および2005年10月にそれぞれ5年延長の更新をした。協定の内容は、(1)共同研究の推進、(2)研究者の交流、(3)資料・研究情報の交換の三項からなる。

[中国・復旦大学との学術交流協定]

東京大学と復旦大学との間における学術交流協定は、1991年10月に結ばれた。この協定の運用は、東京大学では、当初理学部が担当部局であったが、1996年に更新期限となり、その後東洋文化研究所が担当することとなった。2006年に再更新している。交流の内容は、両校間における(1)教員、研究者、院生、学生の交流、(2)共同研究の計画と実施、(3)講義とセミナーの実施、(4)学術情報および学術刊行物の交換、などである。

[シンガポール国立大学人文・社会科学部]

1997年4月にシンガポール国立大学人文・社会科学部社会学科と結んだ学術交流協定を2000年1月に同学部との5ヵ年間の協定に改定し、2005年1月に更新した。研究者の交流と研究資料の相互交換を主な目的とするこの協定は、当研究所の先端地域研究プログラム「アジアの脱植民地化と伝統的産業の再編成」を効果的に推進するうえでも、重要な役割を果たすものと位置づけられている。またこれに加えて2006年1月には、東洋文化研究所が担当部局となり、東京大学とシンガポール国立大学との大学間協定が締結された。上述の部局間協定は2010年1月まで継続の予定である。

部である。『デリー：デリー諸王朝時代の建造物の研究』第1巻(1967)、第2巻(1969)、第3巻(1970)が刊行された。

[西アジア考古資料]

古代イラン文明の研究を目的として、1956年以来「東京大学イラン・イラク遺跡調査団」が両国における遺跡14か所を発掘・調査した結果、収集したものの数は数万点に達し、大部分は発掘品で、考古学上第一級資料である。1958年から1984年にかけて『イラク・イラン遺跡調査団報告』20冊が刊行されている。

[インドネシア大学日本研究センター]

インドネシア大学日本研究センターにおける共同研究の推進と人材育成のために1997年以来国際協力事業団(JICA)による協力プロジェクトが行われているが、当研究所は社会科学研究所と共同でこのプロジェクトの実施のための要員の派遣に当たってきた。この事業を制度的に保証する措置として、2000年9月に同センターとの間で5ヵ年間の学術交流協定を結んだが、2005年3月に東京大学とインドネシア大学が全学レベルの交流協定を結んだ結果、そのもとでこれらの交流がますます活発に行われることとなり、部局間協定は同年9月をもって終結した。

[ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部]

2005年8月にブルネイにおける唯一の大学で、国立の総合大学でもあるブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部と、研究交流および学術情報の交換を主な目的とする部局間交流協定を締結した。1998年から東南アジア研究コースを設けて同分野での対外交流を望んでいる同学部からの要請に応じたものであるが、東洋文化研究所としてもブルネイとの交流を深めることにより、東南アジア地域とくにマレー世界とボルネオ島の文化・歴史・社会についての知見を拡大することが期待されている。

[フランス高等研究院]

2005年5月に、本研究所と東京大学史料編纂所が共同で、フランス高等研究院(パリ)と5年間の学術交流協定を締結した。フランス高等研究院は、19世紀後半に設立された大学院大学で、フランスにおける歴史学・宗教学・言語学などのいわゆる人文学研究の拠点である。両機関は、2002年(パリ)と2004年

(東京)に開催された「日仏コローク」ですすでに学術交流を開始しており、協定の締結によって、研究者の交流、共同研究の実施、資料・情報の交換などの実質的な研究協力がさらに進むことが期待される。

[カルカッタ大学歴史学部]

本交流協定は2006年1月にコルカタで調印された。カルカッタ大学は創立150周年を迎えるのを機会に、日本における南アジア研究のセンターの一つである東洋文化研究所との交流を深め、さらにそれを東京大学全体に拡大することを希望している。東洋文化研究所としては、インド東部の中心的な大学であるカルカッタ大学との学術交流を通じて、南アジア世界、とくに

ベンガル、アッサム、オリッサ、東部諸州などの地域の宗教・文化・歴史・社会に関する研究を一層進展させることを期待している。

[ベトナム・タイグエン大学経済経営学部]

2006年1月にタイグエン大学経済経営学部と5年間の学術交流協定を結んだ。タイグエン大学はベトナム中部高原にあり、ラオス・カンボジアとの国境に接し、多くの少数民族が暮らし、また世界第2位のコーヒー輸出国であるベトナムの主要産地である。この地域は東南アジア研究のフロンティアのひとつであり、経済・文化・環境などの分野で共同研究を行う。



カルカッタ大学歴史学部との交流協定締結に際して挨拶する関本照夫所長
2006年1月 撮影：野久保雅嗣



ブルネイ・ダルサラーム大学人文・社会科学部との交流協定の調印式
加納啓良教授(中央左)とマタイム・ビン・バカル学部長(中央右)
2005年8月 撮影：野久保雅嗣

【刊行物一覧】

東洋文化研究所刊行物 (2005・2006 年度)

東洋文化研究所紀要

●第 148 冊 (2005 年 12 月)

- 黄仕忠 雙紅堂文庫藏清末四川「唱本」目録
- 吉澤誠一郎 西北建設政策の始動——南京国民政府における開発の問題——
- 玄大松 韓国人の血・地・知、そして日本——韓国人のアイデンティティ・独島意識・日本イメージに関する実証分析——
- 林義強 古音、方言、白話に託す言語ユートピア——章炳麟と劉師培の中国語再建論——
- 青木健 故伊藤義教氏転写&翻訳 ソロアスター教書籍パフラヴィー語文献『デーナカルド』第3巻訳注・その3
- ティムール・ダダバエフ 社会主義後のウズベキスタンにおける政権支持、社会内信頼と市民参加
- 田中公明 Nāgabodhi の *Samājasādhnavyavasthāna* について——Vajrācāryanayottama から回収された Skt. 原文を中心に——
- Kei KATAOKA Critical Edition of the *Īśvarasiddhi* Section of Bhaṭṭa Jayanta's *Nyāyamañjarī*
- 宮脇聡史 フィリピン・カトリック教会にとっての「EDSA」——教会的文脈・国民レベルの戦略・政治社会的衝撃——
- IKEMOTO Yukio, SHUTO Maki, TAGUCHI Satsuki Women in Development: A Means or an End?
- 猪口孝教授 略歴・主要著作目録

●第 149 冊 (2006 年 3 月)

- 影山輝國 『史記』「将相年表」倒書考
- 林鳴宇 宋代天台教学の「十類」(上)
- 林義強 排満論再考
- Modjtaba SADRIA De l'Est vers l'Ouest: C'est Or que l'on a oublié
- 青木健 故伊藤義教氏転写&翻訳 ソロアスター教書籍パフラヴィー語文献『デーナカルド』第3巻訳注・その4
- 鈴木健太 Haribhadra の『八千頌』解釈の諸特徴
- 高島淳 Abhinavagupta 作 Tantrāloka 第13章訳と注解——Jayaratha 注釈付(1)——
- ネーナパー・ワイラートサック(藪下) タイの科学技術開発と多国籍企業

KOKUBUN Keisuke, IKEMOTO Yukio, HAMASHIMA Atsuhiko Asian Economic Development in World Income Distribution: 1820-1996

池田知正 7世紀初頭までの突厥の政局——諸首長とその所部の分析を通して——

原洋之介教授 略歴・主要著作目録

●第 150 冊 (2007 年 3 月)

- 呂靜 中国古代盟書遺物に関する一考察
- 黄仕忠 雙紅堂文庫藏清末民初北京木刻、石印本『唱本』目録
- 林鳴宇 宋代天台教学の「十類」(下)
- 青木健 故伊藤義教氏転写&翻訳 ソロアスター教書籍パフラヴィー語文献『デーナカルド』第3巻訳注・その5
- 田中公明 Buddhajñānapāda の *Samantabhadra nāma sādhana* における曼荼羅の供養次第
- Kei KATAOKA Critical Edition of the *Śāstrāmbha* Section of Bhaṭṭa Jayanta's *Nyāyamañjarī*
- 大川謙作 一妻多夫婚研究における文化 vs 社会経済モデルの再検討——チベット系諸民族における婚姻諸形態とその選択をめぐって——
- Natenapha WAILERDSAK (YABUSHITA) Japanese Business and Economy Studies in Thailand
- 小泉順子 シャムにおける中国廟に関する一考察——「廟に関する省令」(1921年)をめぐって——
- Kazuya YAMAMOTO Vietnam from the Perspective of the Asia Barometer Survey: Identity, Image of Foreign Nations, and Global Concerns

●第 151 冊 (2007 年 3 月)

- 黄仕忠 雙紅堂文庫藏民初北京排印本唱本目録
- 近藤龍哉 胡風と矢崎弾——日中戦争前夜における雑誌『星座』の試みを中心に——
- 松浦史子 江淹「遂古篇」について——郭璞『山海経』注との関わりを中心に——
- 中里成章 日本軍の南方作戦とインド——ベンガルにおける拒絶作戦(1942~43)を中心に——
- 青木健 故伊藤義教氏転写&翻訳 ソロアスター教書籍パフラヴィー語文献『デーナカルド』第3巻訳注・その6
- 高島淳 Abhinavagupta 作 Tantrāloka 第13章訳

と注解——Jayaratha 註釈付 (2)——

志賀美和子 マドラス州における非バラモン運動の展開——共産主義との関係を中心に——

Hiroyuki HOSHIRO A Japanese Diplomatic Victory?: Japan's Regionalism and the Politics between Japan, the United States and South-east Asia, 1965-1966

東洋文化

●第 86 号 (2006 年 3 月)

特集 日本の植民地支配と検閲体制——韓国の事例を中心に——

林熒澤 序言

山室信一 出版・検閲の態様とその遷移——日本から満州国へ——

朴憲虎 「文化政治」期における新聞の位置と反検閲の内的論理——1920年代の朝鮮語民間紙を中心に——

韓基亨 文化政治期における検閲体制と植民地メディア

韓萬洙 植民地期の韓国文学における検閲と印刷資本

鄭根埴 日帝下の検閲機構と検閲官の変動

河原功 日本統治期台湾での「検閲」の実態

中里成章 跋

●第 87 号 (2007 年 3 月)

特集 イスラーム思想の諸相

高橋英海 シリア語からアラビア語, そしてアラビア語からシリア語へ

吉田京子 12 イマーム派ガイバ論におけるヒドル (ハディル) 伝承の展開

野元晋 4/10 世紀イスマーイール派の位階制論におけるターミノロジー——ラズィーを中心として——

菊地達也 ハムザ書簡群に見るドゥルーズ派終末論の形成過程

小林春夫 シャハラズーリーによるスフラワルディー著『開示の書』注釈——理知的魂に関する序論のテキスト校訂・翻訳・訳注——

藤井守男 ペルシア語タフスィール『神秘の開示』に見る神秘主義的表象世界

竹下政孝 イブン・アラビー『叡智の宝石』注釈書の系譜——ザカリヤ章を中心にして——

鎌田繁 幸福と哲学者の営み——モッラー・サドラー

の実体運動説の意味——

仁子寿晴 中国思想とイスラーム思想の境界線——劉智の「有」論——

杉田英明 『アラビアン・ナイト』原典購読事始——昭和前期におけるアラビア語研究の先達たち——

鎌田繁 おわりに

International Journal of Asian Studies

第 2 巻第 2 号 (2005 年 7 月)

Concept of the Border: Nations, Peoples and Frontiers in Asian History

Shiro MOMOKI Introduction to The Formation of a Japonocentric World Order

Yasunori ARANO The Formation of a Japonocentric World Order

Yoshiko ASHIWA and David L. WANK The Globalization of Chinese Buddhism: Clergy and Devotee Networks in the Twentieth Century

Noriko T. REIDER Yamauba: Representation of the Japanese Mountain Witch in the Muro-machi and Edo Periods

Independent Papers

Lucie BERNIER Christianity and the Other: Friedrich Schlegel's and F. W. J. Schelling's Interpretation of China

Shigeru KAMADA Mullā Ṣadrā between Mystical Philosophy and Qur'ān Interpretation: Through His Commentary on the "Chapter of Earthquake"

Kyung-Sup CHANG *Ruralism* in China: Reinterpretation of Post-Collective Development

Law, State and Society in China [3]

Hiroaki TERADA The Nature of Social Agreements (*yue*) in the Legal Order of Ming and Qing China (Part One)

Review Article

Thomas NELSON New Contributions to Early-Modern and Modern Japanese History

第 3 巻第 1 号 (2006 年 1 月)

Concept of the Border: Nations, Peoples and Frontiers in Asian History (2)

Paul H. KRATOSKA Singapore, Hong Kong and the End of Empire

Christian DANIELS Historical Memories of a Chi-

nese Adventurer in a Tay Chronicle; Usurpation of the Throne of a Tay Polity in Yunnan, 1573-1584

Wen-Chin CHANG Home Away from Home: Migrant Yunnanese Chinese in Northern Thailand

Independent Paper

Yutaka SUGA Chinese Cricket-Fighting

Asian Perspectives

Juliet CLARK Asian Studies in "Crisis": Is Cultural Studies the Answer?

Law, State and Society in China [4]

Hiroaki TERADA The Nature of Social Agreements (*yue*) in the Legal Order of Ming and Qing China (Part Two)

第3巻第2号 (2006年7月)

Mara PATESSIO The Creation of Public Spaces by Women in the Early Meiji Period and the Tōkyō Fujin Kyōfūkai

Michiko GOTO The Lives and Roles of Women of Various Classes in the *ie* of Late Medieval Japan

Muping BAO Trade Centres (*Maimaicheng*) in Mongolia, and Their Function in Sino-Russian Trade Networks

Law, State and Society in China [5]

Osamu TAKAMIZAWA Legal Troubles and Their Resolution in China: The Interaction of *Shoulizhe* and *Xinfuzhe*

Review Articles

Shigeki MORI The "Washington System" and Its Aftermath: Reevaluating *After Imperialism* from the Perspective of the Japanese Historiography

Ian ASTLEY The Continuing Conclusion to the Pacific War: Samuel Yamashita's *Leaves from an Autumn of Emergencies*

第4巻第1号 (2007年1月)

Yoshihiko AMINO Medieval Japanese Constructions of Peace and Liberty: *Muen, Kugai* and *Raku*, Translated by William Jonston with a Foreword by Eiji Sakurai

Aya IKEGAME The Capital of Rājadharmā: Modern Space and Religion in Colonial Mysore

Asian Monetary History Revisited [1]

Introduction to the New Series by Akinobu KURODA

Richard von GLAHN Foreign Silver Coins and Market Culture in Nineteenth-Century China

Law, State and Society in China [6]

Susumu FUMA Litigation Masters and the Litigation System of Ming and Qing China, Translated by Michiko Okubo

State of the Field

Barbara Watson ANDAYA Studying Women and Gender in Southeast Asia

東洋文化研究所刊行物 (近10年全リスト) *印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの「刊行物」リストをご参照下さい。

東洋文化研究所紀要別冊

50. 岡本さえ『清代禁書の研究』 1996
- * 51. 丸尾常喜『魯迅『野草』の研究』 1997
- * 52. 末成道男『ベトナムの祖先祭祀 潮曲の社会生活』 1998
- * 53. 蜂屋邦夫『金元時代の道教 七真研究』 1998
54. 小倉泰『インド世界の空間構造 ヒンドゥー寺院のシンボリズム』 1999
- * 55. 平勢隆郎『左傳の史料批判的研究』 1999
56. 上村勝彦『インド古典詩論研究 アーナンダヴァルダナの dhvani 理論』 1999
57. 岡本さえ『近世中国の比較思想』 2000
- * 58. 橋本秀美『義疏學衰亡史論』 2001
- * 59. 大木康『馮夢龍『山歌』の研究』 2003
60. 加納啓良『現代インドネシア経済史論』 2003
61. ティムール・ダダバエフ『マハッラの実像』 2006

東洋文化研究所叢刊

- * 15. 平勢隆郎『新編史記東周年表 中國古代紀年の研究序章』 1995
- * 16. 蜂屋邦夫『中国の道教 その活動と道観の現状』 1995
- * 17. 羽田正『シャルダン『イスファハーン誌』研究 17世紀イスラム圏都市の肖像』 1996
- * 18. 平勢隆郎『中國古代紀年の研究 天文と暦の検討から』 1996

- * 19. Takashi Inoguchi, Miguel Basanez, Akihiko Tanaka and Timur Dadabaev, eds., *Values and Life Styles in Urban Asia: A Cross-Cultural Analysis and Sourcebook* 2005
- * 20. 大田省一・井上直美（編）『東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築図様図録』 2005
- 21. 羽田正（編）『ユーラシアにおける文化の交流と転変』 2007

東アジア部門美術研究分野報告

『中國繪畫総合圖録 續編』

- * 第一巻 アメリカ・カナダ篇 1997
- * 第二巻 東アジア・ヨーロッパ篇 1997
- * 第三巻 日本篇 1999
- * 第四巻 総索引 2000

蔵書目録

- *『東京大学東洋文化研究所漢籍分類目録』 重版
1981, 1996
- *『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』
1996
- *『東京大学東洋文化研究所現代中国書分類目録』
索引 1996

その他

- 『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1996
- *『東京大学東洋文化研究所外部評価報告書』 1999
- * Conference Proceedings, Asia in the Twenty-First Century: Toward a New Framework of Asian Studies 1996
- *『アジアを知れば世界が見える』 2001
- 『アジア学の将来像』 2003

東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター刊行物 (近 10 年全リスト)*印は在庫なし

これ以前の刊行物については当研究所ホームページの「刊行物」リストをご参照下さい。

●東洋学研究情報センター叢刊

- 第 1 輯 東京大学東洋文化研究所所蔵田中則雄氏旧蔵書目録 2002
- 第 2 輯 東京大学東洋文化研究所夕嵐草堂文庫目録 2003
- 第 3 輯 東京大学東洋文化研究所所蔵伊藤義教文庫目録 2004
- 第 4 輯 東京大学東洋文化研究所所蔵清朝建築関係史料目録 2004
- 第 5 輯 東京大学東洋文化研究所所蔵上村勝彦文庫目録 2005
- 第 6 輯 東京大学東洋文化研究所所蔵古写真資料目録Ⅰ 明治の営業写真家 山本讃七郎写真資料目録その 1 2006
- 第 7 輯 東京大学東洋文化研究所所蔵荒木茂文庫目録 2007

●東洋学文献センター叢刊

- 第 65 輯 許舒博士所蔵 商業及び土地契約文書 乾泰隆文書 (1) 潮汕地区土地契約文書 1995
- 別輯 20 『販書偶記』正統編合併刊行目録 1995
- * 別輯 21 海外所在中国絵画目録 改訂増補版 (東アジア編) 1997
- * 別輯 22 日本所在中国絵画目録 続編 1998
- 別輯 23 天津史文献目録 1998
- 別輯 24 東京大学東洋文化研究所仁井田文庫漢籍目録 1999

●大型コレクション目録

Catalogue of the Arabic Manuscripts in the Daiber Collection II, Institute of Oriental Culture, University of Tokyo, by Hans Daiber [東京大学東洋文化研究所所蔵アラビア語写本 (ダイバーコレクションⅡ) 目録] 1996